271
103

始

271-103

帝國圖書館藏

實驗 子供の躾け方

報知新聞社家庭部編

大正
10 5 5
內交

序

親として子を思はぬ者はありませんが、別けても精神上の缺陷があるとか身體が弱いとか、さう云ふお子様を持つた爲に、身を切る様な苦しみを嘗めつゝある親達の魂ほど尊いものはありません。此惱みや苦しみを切り抜けて、愛兒を病弱や悪德から救ひ上げた經驗は、百編の教育論にも勝つて尊い眞劍さがあるでせう。世の子を持つ親々達は、皆斯うした活教訓に耳を傾けようとして居ります。

曩に報知新聞は『悪い癖はどうして矯正したか、弱い子を何うして丈夫にしたか』と題を掲げて、廣く世の親達に『子供の躾け方實驗談』を募集しました。集るもの實に千餘通、未だ自身の苦しみを訴へる術さへ知らぬ幼い者の爲に、或は些やかなる刺戟にも傷き易い少年少女の爲に、心身の鍛錬や悪癖の矯正に骨を折

つた幾多の尊い經驗談は、悉く血と涙の結晶ならぬはありませんでした。其中嚴選を經て紙上に掲載したのが五十餘編、更に殘つた原稿の中から、大明堂主の依賴で二十餘篇を選り出し、一本に纏めて玆に再び世に出る事になりました。編者は之を以て、愛の福音書とも、活きた育兒法とも自負して居ります、躾けねばならぬ子を持つ父兄達は勿論、躾けの苦心を思ひやる子弟達も、御愛讀下されば幸ひであります。

大正十年四月

報知新聞家庭部

躾け方實驗談係り識

實驗 子供の躾け方目次

一　一鄕の美風を養成した實驗……（本鄕、溪友生）……一
二　温い愛情で子供を躾けた實驗……（北海、道の女）……四
三　暗い病弱から明るい健康へ導いた實驗……（青森、うきくさ）……七
四　愛兒を盗癖から救つた實驗……（澁谷、滿津女）……一一
五　冷水摩擦と運動とで健康にした實驗……（靜岡、しづか）……一四
六　間食を全廢して腹を丈夫にした實驗……（上大崎、多重子）……一八
七　暗示を與へて恐怖心を矯正した實驗……（東鶏、うゐな）……二〇
八　叱らずに育てた實驗……（富山、芳汀生）……二四
九　店の仕事を手傳はせて子供を敏捷にした實驗……（横濱、八百奥）……二七

一〇　幼兒の肺結核を全治せしめた實驗……（目黑、松田生）……三〇
一一　兄弟喧嘩を止めさせた實驗……（大崎、一母親）……三四
一二　褒めながら勉强させた實驗……（本郷、子供好生）……三八
一三　乾布摩擦で病兒を救つた實驗……（長野、S生）……四一
一四　腕白者を矯正した實驗……（一師範教諭）……四四
一五　作る興味で買ふ欲望を止めた實驗……（本郷、一貨女）……四七
一六　讀み方の遲いのを矯正した實驗……（大垣、關谷生）……五一
一七　幼い姉妹に家事を手傳はせた實驗……（駿州、不二子）……五四
一八　玄米ソップで丈夫に育てた實驗……（淺草、橋場生）……五八
一九　優しい姉の愛撫で弟の我儘を矯正した實驗……（府下、櫻子）……六一
二〇　寒詣りから早起の習慣をつけた實驗……（長野、MT生）……六五

二一　臆病な子供を旅行好にした實驗……（王子、みき子生）……六八
二二　子供から見た親の躾け方……（AK生）……七二
二三　忘れ物する癖を矯正した實驗……（迂生）……七六
二四　日光と空氣と水と土で體格を改造した實驗……（千葉、伊藤元之助）……七九
二五　學校嫌ひを矯正した實驗……（神吉女）……八三
二六　間食の癖を矯正した實驗……（横濱、關子）……八七
二七　短氣と周章てる癖を矯正した實驗……（大森、とき子）……九〇
二八　土に親ませて丈夫にした實驗……（下總、一農夫）……九三
二九　手工によつて性格を改造した實驗……（本所、まさ子）……九六
三〇　自由放任主義で育てた實驗……（戸塚、寒園生）……一〇〇
三一　早教育を施した實驗……（淺草、林下たま子）……一〇三

三二　子供の神經衰弱を癒した實驗……（赤羽、藤吉）……一〇七
三三　嘘を言ふ癖から救つた實驗（上）……（東京、筆子）……一一〇
三四　嘘を言ふ癖から救つた實驗（下）……（同）……一一三
三五　寢小便を治した實驗……（靜岡、めぐみ）……一一六
三六　日記をつけさせて几帳面にした實驗……（麻布、うた子）……一一九
三七　靜坐で粗忽かしやを矯正した實驗……（秋田、とく子）……一二二
三八　散歩で胃弱を治した實驗……（湘南、竹雨生）……一二六
三九　褒られ者で過つた實驗……（横濱、被躾者）……一二九
四〇　母親の算術嫌が祟つた實例……（靜岡、北斗星）……一三三
四一　涙くだけ泣かせて丈夫に育てた實驗……（長野、ゆかり女）……一三七
四二　我儘一杯で弱い子を丈夫にした實驗……（谷中、翠陽生）……一四〇

四三　和歌を教へて優しい心にした實驗……（京橋、愛弟生）……一四三
四四　口で呼吸する癖を矯めて活潑にした實驗……（芝、浩蕩生）……一四六
四五　赤子の時から獨寢の習慣をつけた實驗……（生麥、富子）……一四九
四六　節食療法で丈夫にした實驗……（横濱、一老嬉）……一五二
四七　學術優等で病弱になつた實例……（新潟、エス・ケイ生）……一五六
四八　少しの注意で氣の散る癖を矯めた實驗……（群馬、彌生）……一六〇
四九　スパルタ風教育の實例……（熊谷、戀郷生）……一六三
五〇　惡童を善導した實驗……（北總、覺醉子）……一六六
五一　飽き易い癖を矯正した實驗……（秋田、山重氏）……一六九
五二　無理に不相應な學校に入れて失敗した實驗……（府下、鍾造）……一七二
五三　僞の結婚が子供の暗い運命を作つた實例……（小石川、杉宮生）……一七六

五四　動物愛護の心を養成した實驗……（石川、里子生）……一八〇
五五　勤儉を敎へて女中代りに使つた實例……（長野、早苗女）……一八三
五六　親の串談で娘の心をそこなつた實例……（麴町、ある娘）……一八六
五七　繪を畫かせて注意力を養成した實驗……（靜岡、池谷嵐城生）……一八九
五八　落書を矯正した實驗……（上州、さかえ）……一九二
五九　惡口をいふ弟妹を懲した實驗……（芝白金、愛讀者）……一九五
六〇　淸潔を好む習慣を養成した實驗……（市外、若き女）……一九八
六一　芽生の內に虐げられて弱い心になつた實例……（日本橋、愛子）……二〇二
六二　微溫湯摩擦で丈夫にした實驗……（南信、一愛讀婦）……二〇四
六三　半馬鹿と呼ばれた子を中學に入れた實驗……（酒田、潤二郎）……二〇八
六四　薪割りをさせて丈夫にした實驗……（橫濱、Y生）……二一二

六五　麵麭食で胃腸病を治した實驗……（牛込、腐い子の母）……二一四
六六　英雄主義の敎育に過たれた實例……（日本橋、中僧生）……二一七
六七　人見知りの癖を矯正した實驗……（日暮里、倭文子）……二二一
六八　運動嫌ひの癖を矯正した實驗……（赤坂、富美雄）……二二五
六九　大事にされ過ぎて身體の弱くなつた實例……（田端、太郎坊）……二二八
七〇　祖父母を偲ばさせて躾けた實驗……（群馬、子寶生）……二三二
七一　詰め込み主義の敎育が弱い心を脅した實例……（淺草、齋藤）……二三五
七二　跣足の散步で腺病質と扁平足とを癒した實驗……（下總生）……二三八
七三　精神統一から算盤を上達させた實驗……（埼玉、持田生）……二四一
七四　惡友の群から遠ざけて墮落を救つた實驗……（東京、きく子）……二四三
七五　父母の無智が子を病弱にした實例……（越後、杜鵑花）……二四七

目次

七六　復習嫌ひの弟を矯正した實驗……（越後、綠蔭）……二五一
七七　可愛がらずに丈夫に育てた實驗……（千駄木、唐澤生）……二五四
七八　買物をさせて數の觀念を養つた實驗……（牛込、わき子）……二五八
七九　四つの癖を矯正した實驗……（茨城、碧水生）……二六二
八〇　貯金を取り上げられて不良少年になつた實例……（福島、被躾者）……二六五
躾け方實驗談の選後に……二六九

＊　＊　＊　＊　＊　＊

終

實驗　子供の躾け方

報知新聞社家庭部編

一、猛烈な惡戯を導いて　一鄉の美風を

◇叱らずに奬勵して斯う變つた。　親達も持て餘した子供等を。

子供は活動好きのものですから、親達は成るべく此の活動を止める事なく、良い方に導く工夫が必要です、此れについて私の實驗を申しませう。

丁度大正四年の冬休みの事でした、私の村で或部落の六人の子供が畑を荒して耕作主に叱られて居ましたが、やがて村の神社へ行き、再び惡戯を始めて樂書をしたり木に登り枝を折つたり、終ひには社の戸をはづして遊び道具にすると云ふ

有様で、木切れ竹切れ紙屑等が神域一杯に散らばつて、足の踏み所も無い有様でした。

私は暫らく傍で見て居ましたが、(此の様な遊びは此の部落の子供の特長で、親も手の附け様がなく全く放任して居るのです)何時まで見て居ても益々悪戯が猛烈になるばかりで止める様子がないので、悪戯のあひ間を見て『皆さん私は病氣をして神様へ願をかけたので、掃除をして願を解くのですから、御苦勞ですが手傳つて下さい』と申しました。子供は氣輕ですから直ぐ承知して私と一緒に掃除を始めますと、瞬く間に見違へる程其邊が綺麗になりました。そこで私は面白いお話をして聞かせ、鉛筆を一本宛やりますと、子供等は喜んで歸つて行きました。

次の日曜も同様にして、其の後二ヶ月程日曜毎に掃除とお話を續け、三ヶ月目に生徒の年長者に監督を一任して日曜會と名をつけ、會長理事を選擧させて全く

自治的な子供の會と致しました。

始めは鉛筆が欲しさに集つた者も、後には鉛筆が無くとも義務を感ずる様になり、遂に部落全體の生徒が入會することになりました。此事が一方親達の目にもとまり、掃除道具を買ひ神社の修繕もしたので、私は部落の人に話して寄附金を集めて會の基金とし、利子を雜誌購入學藝會の費用などに使用して居ります。此事があつてから子供等の心も幾分か向上して、悪戯が少くなり清潔及び信仰の念も養はれて參りました。

殊に實行を始めて一年目、大正五年の春季祭典には小學校全生徒が參拜した時校長は社の清潔なのに感心して、其譯を尋ねましたから此事を話しますと、此の部落を手本として全生徒に訓話してくれました。それから成績が日に日に現はれ、特に公德心が發達して公共物に對する取扱ひがよくなり、一方下級生は上級生の

命をよく守り、上級生は下級生をいたはつて、雨風の日などには親も及ばぬ程深切にしてくれると喜んで居ります。

それで私は常に何を躾けるにしても、第一に善事をほめて惡事を訓戒して居ります。

二、父の鐵拳に裏切つて　愛の母の許へ

◇私が經驗した家庭悲劇の教訓。親が主張し得る唯一の躾は何。

私は廿四歳を頭に三人の男の子の母で御座います、永い月日の間にいろ〳〵苦い經驗も舐めましたが、其内で間違つた親の躾の爲に、子供に反かれて行つた、悲しい經驗をお話しして、皆様の御參考に供し度いと思ひます。

私は子供の躾けには、何よりも温かい愛情が必要だと信じて、何んな場合にも

女親らしく忍耐して、温かい言葉で諫め勵ますやうに心掛けましたが、夫は萬事威喝主義で、氣に入らぬ事があれば、頭ごなしに叱つたり打つたりして、親の威光を示す事ばかりに心掛けて居りました。例へば子供等が兄弟喧嘩などをすると私は兄は弟を慈み、弟は兄を敬ふ可きものと諭し乍ら心を落付けて機嫌を直させる樣に仕向け、善い事も惡い事も、子供等自身で靜に反省するやう言ひ聞かせてやりました。之に反して夫は、氣短な上に大酒をする癖があつたので、先づ痛い拳骨を見舞つて、威嚇してから喧嘩の仲裁をするといふ有樣で、醉つて居る時などは殊に手酷しい仕置をして居りました。

斯うして育てられた子供等が軈て年頃に達した頃、或事情の爲に私は夫と別れて別な家に生活しなければならない境遇になりました、處が當時父の許から中學に通つて居た長男が、次第に學業が荒んで遊興に耽る樣な悲しい傾向を帶て來ま

した。次男は左して變りもありませんが、三男は學校の歸りなど、毎日私の宅に立寄つて『父と一緒に居るのは嫌だ』と泣いて訴へます。私も心配の餘り一日長男に逢つて聞いて見ると、父は相變らず酒を飲んでは、拳骨と威嚇の一點張で、家の中には何時も冷い風が吹き荒んで居る。勉强も脅かされて强制的にさせられて居ては一向面白くないから、學校を止して仕舞ひ度いと申すのです。斯うして三人の子供等は、父の躾に裏切つて、益々悪くなつて行くばかりでした。

其後いろ〳〵經緯があつて、結局三人の子供は私の許で勉强する事になりました。所が三人の子供等は、私の許へ引取つてから、打つて變つた素直になり、よく私の言ふ事を聽いて、仲善く勉强を勵み、日陰の草花が日向へ出された樣に、優しく温かに育つて行きました。一時悪い路へ踏み込んだ長男が、間もなく品行の直つた事は申す迄もありません。父に叛いた可憐相な三人の子供等は、斯うし

て愛情より外に何物も持たない私の膝下で、眞つ直に正しく人となつて行つたのです。

私の永い經驗から申せば親の威光を笠に着る暴力や威嚇は、子供に自暴自棄を敎へるばかりで、何の役にも立つものではありません。今の世の子供等は、人格も個性も無視した親の鐵拳に盲從して行く事は出來なくなつて居るのです『温かい愛』こそは、親が子に臨んで主張し得る唯一の躾けではありませんでせうか。

三、亡き父の寫眞の前に　其の日〳〵の報告

◇嗜い病弱から明るい健康へ。蘇つた二人の忘れ形見。

私には今年十四になる女の子と十二になる男の子とが有ます、夫は十年前に歿りましたので、私の手一つで是迄育て丶參りました。父親に似て二人共幼少の時

から身體が弱く、家の中には年中藥の香の絶える事が有りませんでした。その上父親の無い不憫さに、何事も子供の云ふが儘に任せて置きましたので、姉が學校に入る頃には、我儘な不活潑な然も暗愚で猜疑の心のみ強く、私の手にも餘りましたので、止むを得ず一時叔母の家に預けて見ました。けれども半年ならずして叔母にも愛想を盡かされ再び私の許へ返されて仕舞ひました、私は其時始めて今迄の誤つた躾方を悟り、飜然次の樣な方法で躾ける事にいたしました。

體育上の注意(イ)間食●● 今迄は何時でも要求通りに食べさせましたが、それからは何か小供相應の時間と勞力とを要する仕事（例へば庭掃き御使等を）爲た後に消化の良い物を食べさせる外は一切間食を廢しました。

(ロ)日光浴●●● 醫師の注意も有りましたので、努めて日光に浴させる樣にし、先づ居間を家中の最も日當の良い部屋に移し、又鉢植を十數箇求めて毎日水をやら

せ、數坪の花壇を設けて草花の培養を小供の手に任せ、且つ鷄や兎をも飼はせて、なる可く屋外で遊ばせる樣に致し、一方趣味性と動物愛護の感情を養はせました。

(ハ)友達●● お友達を選ぶことは精神的にも體育上にも重大な關係が有る樣です。同氣相求むとか申します通り、私の子供は兎角内氣で不活潑なお友達ばかり選びたがりますが、私は成る可く之を避けて、健康な活潑な人々と遊ばせる樣にしました。すると自然にその人と同じ遊びをするので段々健康を增して來ました。

(ニ)お話。讀物●● 私は古の武勇傳烈女傳の樣な勇ましいお話を夜分敎へ又讀物も此の類を選ばせました。併し餘り子供の好奇心を募る樣な讀物やお話は絶對に避けました、此結果暗い臆病な性質が矯められ、目立つて活潑な明るい性質になつて行きました。

精神上の注意(イ)叱責●● 虚言を云つたり他人の缺點を話したりした時には嚴し

く戒めました。すると必ず反抗心をおこしますから、之を利用して勇猛心に轉じさせる樣に努めました。

（ロ）勉强時間　朝と日暮とを選びます。之は最も忙しい時刻ですが、經驗上一番よく覺える樣です。

（ハ）報告　毎晩子供と一緒に亡き夫の寫眞に向ひ、其の日の小供等の善惡を報告しました。之が小供等に取りまして、激勵ともなり悔悟ともなつた事は一通では御座いません。

（ニ）成績物　之は永く保存して時々比較して勵ましました。

（ホ）茶の湯　女の子の方には一昨年以來習はせて居りますが、近頃は身がしまり何處となく重々しい所が見えて來ました。

以上申上げた事に主として注意しました處が、數年ならずして二人共身體が大

層丈夫になり、性質も全然變つて終ひました。そして暗愚で持て餘された姉の方は只今女學校の一年生で成績も中以上ですし、弟も尋常四年の級長で且つランニングの選手ださうです。これならば老後の樂になると私は獨り喜んで居ります。

四、耻を忍んで愛兒を　盗癖から救ふ

◇泥棒の綽名を聞いて泣き乍ら。四年間の忍耐で正しい子供に。

私の二男は幼時物を盗む癖があつて實に困りました。それは私が二男を產み落すと直ぐ、或る事情で田舍の餘り裕福でない所へ里子に遣つた爲に、癖がついたのだらうと思ひます。

六歲で宅へ迎へて毎日注意して見てゐますと、その卑しい根性や言葉遣は兎も

角、物品を何でも自分の物にしたがる癖のあるのは實に驚きました。長男が一寸美しい鉛筆でも持つてゐるとすぐ呉れと言ひ、それを與へぬと、何時の間にか盗んでかくして了ひ、又かくしてある所を見つけて優しく言ひ聞かせても、耳もかさずにそれを他に了ひ込み、近所の子供達と友達になるやうになると、今度は他人の物をなんでも懐に入れるやうになりました。私は里子にやつた事を今更後悔し乍らも行末が恐ろしいから、斷然其癖を矯正しようと決心しました。

併し只八釜しく叱言を言つてもねぢけさせるばかりですから、ジット辛抱して實際に爲した事をつき止めてからよく言ひ聞かせた上、お伽噺などで、悪事をした後の天罰の恐ろしさなどを面白く言ひ聞かせ、盗んだ物は直ぐその人に詫つて返して來させました。耻を忍んで自分の子に盗んだ詫びをしにやるなど母として は身を切られる程苦しいのですが、これも子のためと、涙を呑んで無理に實行さ

せました。私は一日も早く矯ればいゝと逸る心を制して、寢物語りにも盗む事の罪をしみじみ味はせようと、面白く仕組んで話してやり、お友達の持つてゐる物で欲しさうにした物は大概買つて與へるやうにしてゐました。

小學へ入學してからは友達が増えた爲か、一度なほりかけた癖が二度起つて參りました。その中に『泥棒』などと仇名をつけられるやうになるにつけ私はどんなに悲しかつたでせう。折檻しようかと思つたのも二度や三度ではありませんでした。けれども私の主義は一定してゐました。『穏かに自然に歸せ』とその都度心を戒めて静かに言ひ聞かせ、欲しいものは何でも買つてやるから言ひなさい、と申しました。或時は學校の教室の黒板ふきを鞄の底にかくして持つて歸らうとして先生に發見され、保證人として到頭私が呼ばれる事になりました。其時の耻かしさ、私は幾度泣いたか知れません。

併しそれを好機會に先生に一切をお話して學校でも充分監督をお願ひし、非常な忍耐で少しづゝ曲つた心を引戻す樣に注意しました、其内に心も素直になつて盗癖も段々無くなりましたがまだ友達に本を借りて面白いと返さずに自分のものとしたりしますので、本を借りてきた時は餘り八釜しくない程度に早く返す事をうながすやうに致しました。そのためか十歳頃になつてからは自然に忘れたやうにその癖を見なくなり、それに反省する心も出來て心も行も正直な素直な子となり、私も人知れず喜んで居ります。

五、四度瀕死の重患を切拔て　生れ代つた健康

◇心を鬼に幼い、兒を鍛へた。冷水摩擦と跳の運動。

私の子供は生れて滿一ケ年の頃に流感に冒されまして、熱が三十八九度から高

い時には四十度を超えた事もありましたが、神の御加護と云ふものでせうか、四ケ月も掛るやうな大患を、やつと玉の緒を繋ぎ止めました。

やれ嬉しやと思ふ間もなく、また三月程經つと一寸した親の不注意から腸カタルを起し、遂に慢性となつてそれにも三ケ月も掛つて漸く癒す事が出來ました。すると、二ケ月も經たないのに又々二度目の流感に罹つて遂に氣管支カタルに變じ、日夜咳に苦しむと云ふ有樣、私は三度目だから是れはとても駄目だらうと思つて、衰へた子供の顏を見て泣いて暮しました。でも泣いて計り居る場合ではない、出來る丈の力を竭して見ねばならぬと、三月の間帶を解く暇もなく看病に努めたお蔭で、三月の聲を聞いてから毎日薄紙を剝ぐやうに快くなつてまゐりました。けれど其の頃は丁度眞夏が迫つて居たので、暑さを越す心配をせずには居られませんでした。

處が忘れもせぬ七月六日の夜、突然腹痛を訴へますので、私は恰かも頭から水でも浴びたかのやうにゾットしました。直様手當はしましたが、二日目には三十回も行き、粘液に多少血便らしい者も見え、熱は四十一度二分と云ふのですから醫者も驚いて、萬一もの事があつてはと專門醫を紹介し夜の明けるのを待兼ねて入院させました。その日は便通は更に増して六十回にも及び、最早この世の者とも思へぬ程衰弱してしまひました。注射を打つ事三回、入院の四日目には、明日は隔離と云ふ事になりましたが、神の助けか其の晩から次第に便通が少くなり、院長も診察毎に驚かれる程經過がよくて、十四日目には退院の運びとなつたのでありました。

さて此後は養生一つと、食物は醫者の云はれるまゝ當分流動物（牛乳とおも湯）で分量にも注意を拂ひ、量を増すにも極く少量宛殖して、二三日其の様子を見て

障りのないのを見ては又少し殖すと云ふ風に、固形物へ移るにも同じ方法で漸く普通の食事まで漕ぎつけました。其間心を鬼にして欲しがる我が子と一緒に泣く事さへありました。恁うして退院以來經過は良好で、日に〳〵十匁宛肥り行くと云ふ風で漸く生命をとりとめたのであります。

其處で今後此の子を育てるには病魔に冒されぬやうな強い體を作るにあると考へて、毎朝五時に起る習慣をつくらせ、幼い乍ら冷水摩擦をやらせた上、五六丁ある所へ跣で運動に連れて行つて、歸つてから朝食を採り、又日中鹽湯に入れてなる可く運動好になるやうに仕向けました。夜は六時に床に就かせ（午睡した時は例外）充分睡らせ充分運動する方針で、體を鍛錬しましたところ、非常に成績がよいので、此の寒風吹き荒む今日も尚、冷水摩擦を續けて居るのであります。或時葱類が身體のためによいと云ふ事を聞いたので、それでは韮は葱以上に宜い

のに違ひないと思つて、毎日二本宛食べさせ、既に二ケ月經過して居ます。凭う云ふ風で昨今では近隣の子供が咳を立てゝ居るのに、二ケ年病み過した私の子許りが何事もなく、頬は林檎のやうに赤く、目方も三貫八百匁といふ猛者になりました。

六、間食を全廢して　御飯を四度に

◇生れ乍ら腸の弱い兒を。丈夫にした私の經驗。

これには反對のお方が澤山お在りでせうと存じますが、私が經驗した事實を一寸申上げませう。私には今年四才になる女の子があります、未だお乳ばかりいただいて居る頃もあまり腸の宜しい方ではありませんでしたが、少しづゝ御飯をいたゞく樣に成りましてから兎角腸を害し、毎月お醫者樣の厄介に成らぬ事は無く、

私共では皆心配ばかり致して居りました。

ところが去る一昨年の十一月到頭ひどい大腸カタルに罹りました、何が原でこんな病氣に成つたかといろ〳〵考へましたが、矢張り間食が多かつた爲であつたらしいとお醫者樣が言はれるのです。併し其時はもう失敗した後で取返しはつきません、今後全快してから注意に注意をして、二度と此樣な病氣には罹らせまいと決心し、たゞ命のある樣にとそればかり祈つて居りました。藥のお蔭と申しませうか、それとも壽命がありましたものか、運よく命だけはとりとめましたが、併し弱い上の大患で、衰弱は一通りでなく、何うしたら此弱つた身體を回復させる事が出來るか、私には却々見當も付きませんでした。

そこで色々と考へた末其後は全く間食を廢させ、其代り御飯を一日に四度にして、外には何も與へぬことに定めました。小兒の間食を止させるには之より外に

方法は無かつたのです。朝七時から始めれば四度の御飯でも夜の七時に終ります
し、朝八時から始めれば夜の八時には終ります。朝七時に一度今度は十一時に、
次は午後三時其次は午後七時にと、こんなに致して見ました。初め馴れぬ小供は
色々とお間食を欲しがりましたが三四日經つ内に馴れて仕舞つて自分から進んで
四度宛いただく樣になりました。

これを實行してから今日まで一度も腸を害した事は無く、且丸々と太つて先と
はまるで生れ變つた樣に健康に成りました。これは私の實驗で御座いますから一
寸皆樣の御參考までに申上ます。

七、眠る前に暗示を與へて　恐怖心を矯正

◇電車や汽車や自動車を恐れる。神經質の兒を矯正した私の經驗。

私の長女は今年五歳になりますが、非常な神經質で恐怖心が強く隨分弱りました。特に電車や汽車に乘る事が嫌で、何處かへ行く積りで伴れ出しても、電車や汽車に乘ると大聲で泣き暴れ、五分と乘つて居ない爲に、何時も途中から戻らなければなりませんでした。そればかりでなく街の中を手を曳いて歩いて居る時も自働車などが來ると前にも後にも動かず、凝つと固くなつて自動車が通り過ぎる迄、私にしがみ付いてふるへてゐたものです。こんなことから私も子供を連れて外出する事が大變億劫になりましたが、然し手不足な私共にはお使に出る者が無いので、厭でも買物や用事のある時には、子供をつれて町へ出なければならず明け暮れこの神經質な兒の恐怖心を治したいものと夫ればかり考へてゐました。而して小兒科專門醫や近所の方々に色々相談もしましたが、敎へられた總ては何の効果ももたらしませんでした。醫藥も賣藥も一通りは用ゐてみましたが夫れも

矢張り無効に終りました。

所が丁度昨年の秋頃でしたか何かの本に――寢小便をする兒を抱いて寢る時、親の手を固く握らせてゐると眠りが深くなるに從つて握つた兒の手の力が弱くなる、その時を見て『粗忽をしてはいけない、小用の出る時には敎へなさい』と毎夜小聲で囁くと、いつとは無しに寢小便をしなくなるといふ記事を見ました。元來私は催眠術が好きでしたが幼兒に行ふ事は何うかと氣遣ひました折柄、これを見たので成る程此暗示法に依つて行つたら良い筈だと、早速その晩からこれをわが兒の恐怖心矯正に應用いたしました。

子供が眠りに入つた頃を見計らひ――電車や汽車に乘ると面白い所や綺麗な花の澤山咲いた所を見に行かれますよ、ちつとも怖くは無いの、自働車もお父さんやお母さんが付いてゐるから何も怖くはないよ――といふ樣なことを繰り返へし

て小さな聲で判然と暗示を與へるのです。そして毎夜一週間もこの暗示を續けました處、それ以後めつきり治つて今では平氣で電車にも汽車にも乘るやうになりました。猶私はこれを他の食物の好き嫌ひとか泣き癖とかに應用した居りますが何時も良く治ります。暗示の與へやうに依つては色々な惡癖矯正にもなると思ひます。

◇確に有效

高島平三郎氏談

此暗示の方法に依れば、子供の性質の悉くを變へる事は出來なくても、或る部分迄更へ得るのは事實で、恐怖心の矯正から盜癖、强情、卑屈、寢小便までもなほるのであります。實驗して見た事は無いが、夜齒を軋ませる癖、(これは腸に故障のある者に多いから其の方の治療も必要だが) も試

みて効があるだらうと思ひます。幼稚園と小學校の初年級の時代が最も効果のある時機で、十四五歳になつてもまだ相當効果を認める事が出來ます催眠術は度々かけると弊害が多いが、暗示はいくら施しても身體にも精神にも害はないものであります。

八、校務の餘暇には　愛兒の子守

◇幼兒を叱るのは有害無益。褒め乍ら育てゐる私の主義。

私には本年四歳になる男子が一人ありますが、私は某校に職を奉じてゐるので朝は八時頃に家を出て、午後は五時前後にならなければ歸りません。子供の躾は主に父と妻と弟がしてゐる樣な譯であります。然し私の出勤前や歸宅後殊に日曜其他の休日には、私がよく子守をやり乍ら、私の主義で躾をしてゐます。

世の中には子供がいたづらをした時『なぜこんないたづらをするか』抔と叱りつけて止めさせる人もありますが、私は『こんな事をしない者は賢い』といふ樣に、褒めながらそれを止めさせました。又私の子はよく物を投げる癖があつて困りましたが、これも見つける度に『物を投げない者は好い子だ』といつて止めさせましたので、今では殆ど投げない樣になりました。それからよく癇癪を起して人の言ふ事も聞かずに暴れ廻つたり、自分の言つた事を通さねば開かなかつたり、又むやみに人の反對に出で、人が『寒いからあたれ』と言へば『暖かい』といひ、『ねよ』といへば『眠くない』といつたりしてよく手古摺らせましたが、これも餘り叱らずに、ほめながら直す樣にして、今では大分よくなりました。

それから天氣さへよければ家の廻りの畑へ出して遊ばしてゐます。又時には、近くの小學校の校庭へつれて行つて、ベースやテニスをしてゐるのを見せたり、

子供の持つてゐるボールで私と投合ひの眞似をしたりします。玩具も破損した物は成るべく修繕してやり、破損し易い物は特に持たせない前に手入をして與へるので隨分多く持つてゐる方で、近所の子供が皆この玩具をあてによく遊びに來ます。最もよく遊びに來るのは尋常二年の女の子と、同四年の男の子で、其の外時々來る者も、五六人はあります。だれも皆、すなほな親切なよい子供ですから、喜んで一しよに喇叭を吹いたり、旗をかついだり、かけつこの眞似事をしたり、又太鼓をたゝいて獅子舞の眞似をしたりして遊んで居ります。又子供の聞くことは煩さい事でもよく聞いて返事をしてやります、これはやがて子供の知識を啓發する大なる要素であると考へるからであります。

要するに幼兒を叱るのは唯其の心をいぢけさせるだけで、何の益もない事と思ひます。幼き體、小さき心の芽を、正しき方向に助成させるには、ほめながら直

してゆくに限ると思ひます。

九、店の仕事を手傳つて　鈍才が俊才に

◇頭腦も身體も使はぬ兒が。算術が上手になる迄。

私は八百屋で細い利益を見てゐる商人ですから、二人の子供の無事に育つて行くのを見るのが無上の樂みであります。長男は今年十九歳、次男は十三歳でありますが、長男の方は學校の成績が優等で卒業した程ですのに、次男は何うも成績が惡く、就中算術が非常に不得手で、受持の先生からも家庭で復習して遣つて呉れるやうにとお小言のある位でした。

私も先生の御注意を受ける迄もなく、毎夕仕事も早くきりをつけて敎へて遣らうと思つて居ましたが、次男が遊びからの歸りが遲かつたり、早い時には自分に

用が出來たりして、精々三日に一度位の復習では何うも目的の半分も達する事が出來ませんでした。それに其の三日に一度の復習すら、噪がねば泣く、泣かねば笑ふ、まるで埒が開かないから、私も我が子乍ら此の低能兒にはとく匙を投げて仕舞ひました。そこで是れは起居動作の一つ〳〵を資料に教育するより外はないと考へ、それからは一切學問的に責める事を廢し、極く自然に育てゝ日常見聞する事から學ばせようと決心しました。

其所で「今日からお前は毎日の帳合と月の決算と庭の掃除とお客樣への應接との四をするのが仕事だよ」と申渡し、私は成る可く手を出さずに後見役になりました、市場から荷が入れば、葱は一把何本あるか、三割の利益で賣れば十本何程に賣るのか、里芋は一升何程に賣るか、大根は何うか、人蔘は何うかと、此麼風に學校へ通はせる以外は家庭で商賣に使役する事とし、それから今年で三星霜を

經ました。處が昨今に到つては流石の愚物も面目を改め學校の成績も宜しく特に算術の如きは中々機敏で、暗算では私を負かす程で打つて變つた子供となりました。

次男が此樣に愚かしい子供になつたのは、母が溺愛して世話をし過ぎた爲に、幼少の頃から自分の頭腦や身體を使ふ事を知らなかつた爲だらうと思ひます。此點に氣が付いてから、前申した樣に實際の仕事を手傳はせましたが、初めは動作が不器用で、注意の行屆かぬ事が多かつたのも、年と共に次第に革まり、私が口癖に「仕事の角々を綺麗にする事、仕事は必ず結果を見るまでやる事、滿身の力を仕事に注いで、活潑に動作する事」と敎へるのを守つて近頃ではまるで別人の樣に敏捷な子供になりました。算術の出來ないお子さんを持たれた方は、斯ういふ敎育法を參考して見られるのも宜しからうと思ひます。

一〇、叱らず教へずに育てゝ　幼兒の結核を全治

◇海に親んで四年の間。親子三人蘇つた原始的生活。

私が肺結核患者であつた事を秘して妻と結婚したのは、今から十四年前でありました。尤も私の病氣は極く輕微で、醫者も證明したほど完全に全快して居たのですが、子孫に傳染して一家全滅した友人があつたので、それに怖れを抱いた私は、初はあらゆる妻帶の勸を拒んで居ましたが、父母に「それでは親不孝だ、祖先に對して申譯がない」と迫られ、私も遂に我を折らずには居られなかつたのであります。

所が翌年一女を擧げて喜んだのも束の間、私は赤ん坊の見るからに弱々しい體格に心を痛めました。それ許りではなく妻は產後餘病を發したので母乳が與へら

れませんから、赤ん坊は益々衰弱して行つたのであります。併し別に病を出すこともなくて成長して行くので、それをせめてもの慰めとして育てゝ行くうち、それは丁度五歲の春でした。遂に私の心配して居た事が起つたのであります。二月の始頃のこと、泣いて許り居て食物を食べたがらず、胸が苦しいと訴へますのでそれまでにも胃が弱くて胸が悪い事を訴へた例があつたので、又例の病かと私は氣にも掛けずに屋外へ逐ひ遣りました。すると其夜三十九度と云ふ恐ろしい熱を發したのであります。私は驚いて醫者に見せると『肋膜を侵されたので大した事はない』と云はれたので少し安堵しましたが、併し其の後一週間經つても病狀は快くならず、却つて惡化しさうですから、某大家に診察を乞ふと、私の心配して居た通り、病兒は肺結核の初期と斷定されたのです。

頑是ない子供に斯る病苦を與へたのは自分だと思ふと、此子のためには一身を

賭しても罪をつぐなはねばならぬと決心し、妻と二人稼業をも休んで看護に盡しました。七月頃肋膜炎は全快して、最早起きて歩くやうになつたが、醫者は肺の力は益々進行して居るのだから此際入院させて徹底的に癒さねばならぬと忠告されました。併し私は子供を入院させる程の餘裕を有つて居なかつたのです。であらゆる賣藥や祈禱の手を盡して全快の日を待つて居たが八月には更に衰弱甚しく『今年中は保つまい』と醫者が云ふのです。私も涙を振つて一人娘のために遂に意を決し、店は父母に委せて、親子三人鎌倉海岸に家を持つたのであります。

それ以後約四年間の生活は實に規則立つたものでした。朝は未明に起き嫌がる子供を起して、家内三人稲村ヶ崎の海岸を散歩して來、七歳の學齢を超えても學校へもあげず、叱言も云はず、亂暴爲放題の自然主義で終日海を友として呑氣に遊ばせ、就寝前には三人で冷水浴をしました。始めは嫌がつて困りましたが、父

母が一緒にやるので遂には之も習慣となり、自分から進んでやる樣になりました夏は裸の貝拾ひ水泳ぎで附近の漁夫の子供に混つて勇ましく遊び廻つて居ります妻は女の子だから少しは行儀などを覺えさせ度いと言ひましたが、それは全快してからいくらでも出來ると、唯身體を作る事ばかり心掛け、夜分少し計り本を讀んで聞かせる位にして置きました。三年後には顔色も樣子も體格も漁夫の子と見分けが付かぬ程になり、醫者も最早病菌も退散したと驚かれる程丈夫になりました。お蔭で私達夫婦迄が太古の民の樣に呑氣に強健になり四年目に別人の樣になつて三人揃つて歸京しました。

長女は十歳で小學校の二年に入學させましたが其後風邪一つひかず、成績も宜しく今年で二回目の酉年を迎へて今や私の家には笑ひ聲が絶えません、肺病の藥中一番効があつたと思はれたのは蘇鐵の實を煎じて飲む事で、目に見えて熱が下

つて行きました。

一一、猛烈な兄弟喧嘩を　五週間で仲好に

◇母親の手一つで矯正した經驗。　名題の悪太郎が秀才になる迄。

私には十三歳を頭に十歳八歳と三人の男の子がございます。三年前嚴格な父親が死んでしまひましてからは、母親の手一つで育てゝまゐりましたが、今迄威壓されてゐた子供等は、急にそのおもしがなくなつた爲に、自由な我儘な生活に入り、積り積つて居た我儘心が一時に突發いたしました。その結果最も目についたのは兄弟爭でございます。

『兄弟喧嘩は絶對に止めさせるべきものではない、その證據には獨子は非常に弱虫である』と或る名士の說を拜見したことが御座いました。子供のことですから

少々の爭ひは仕方がないとしても、私の家の子は殆ど一日中朝から晩迄顏を合せる度に爭ひを始めます。口汚く罵る聲や騷ぐ音は、近所中へ聞えるので、私は恥しくて泣きたくなる位でございます。其内に近所の方々からは度々小言を持ち込んでまゐります。子供は子供でいつの間にか友達に除けものにされ、悪太郎といふ綽名で評判される樣になりました。私は恥しいやら悲しいやらで暫らく泣く日ばかり續きました。間もなく私は元氣を振ひ起して、是非この汚名を雪がうと決心いたしました。外部の排斥で家の中にばかり籠つて居る子供等は、私が丁度斯う決心をした頃は兄弟爭ひもその極度に達してをりました。

私は先づ兄弟の爭ひの原因に充分注意を拂つてみますと、爭ひの原因は大抵慾望の結果であることがわかりましたので、財源の許す範圍に於て、品物を豐富に與へました。此最初の試みは見事に成功して、一日中いがみ合つて居た喧嘩も數

へる位に少くなりました。これに勇氣づけられて私は第二の方法に取りかゝりました。それは小形の手帳を作つて、爭の度毎に記入し、毎週日曜に總度數を計算して爭ひ一回について二錢の割で子供の爲に貯金する筈の豫定の金額から引き去り、それと同時に爭ひの最も少かつた者には相當の賞を與へる事にしました。此方法も非常に好成績で、一番惡かつた時から五週間の後には全く兄弟爭は無くなつてしまひました。

其時の私の喜びは頂點に達しました、そこで此機をはづさず今一段立派にしなくてはならぬと其後は毎夜缺かさず『兄弟爭は卑しい慾から起るから慎しまねばならぬ』と注意を與へ、いろいろ孝子などの話をして聞かせました。又一方意氣地が無くならぬやうにと、劍道や戸外遊戯を熱心に奬勵いたしました、幸三人共元氣で學校の成績も非常によくなつて參りました。

◇一時の方便

鰺坂成城小學校主事談

兄弟の間に働いた慾が賞の方に轉換した形ですが、賞も喧嘩の數の少い者になどと云ふ消極的な方法よりも、今一歩を進めて親切を盡した者とか善行をしたものとかに與へるやうにしたならば面白からうと思ひます。道德は報酬を豫想して成立するものではないが、幼時の方便だと云ふ事を忘れなかつたならば確に有効だと思ひます。併し公平を缺いたり、兄弟仲よくする習慣が付いて後までも方便であつた事を忘れて、報酬を貰ふのを習慣にまでしてはなりません。

一二、內氣な女の兒を導く　奬勵の褒言葉

◇叱つて勉强さした失敗。子供の氣質を見て導け。

子供を敎育するには第一に其の子の氣質を呑込むことが大事だと思ひます、叱るにも褒めるにも其の氣質を呑込まないでは却つて思はぬ方に子供の性質をそらせる事があります。私の親しくしてゐる家の長女で極く內氣な一寸したともすぐ泣き出すやうな方がありました。

母親は何かと口やかましくいふのを躾のやうに心得、机に向つてゐさへすれば勉强のやうに思ふ方でした。少し忘れたり讀み續かぬ所でもあると、兎や角とお小言を言ひます。氣の弱いお娘さんは口やかましく叱られるのを恐れて、はつきりと聞き返すことも出來ず、お仕舞には泣き出すやうな工合で、母親も焦れたく

なつて叱れば叱る程、愚圖〳〵してお母樣を困らすのでした。かうして毎日勉强を强ひられ乍らも、叱られて弟や妹に笑はれるのが口惜しく、勉强をといはれゝばベソをかいてすご〳〵机に向ひ、遂には忘れても考へず、知らなくても聞かずにやり過して、母の前をばかりつくらふやうになりました。斯んな有樣で、學校の成績は益々母の期待に反くやうになり、學校に行くのもシブ〳〵で、朝から母親に叱られてむづかるので、女中迄も困らせるやうになりました。父親から話があつて私が復習をしてやるやうになつたのはかうなつてからのことです。

此子の敎育を引受けて先づ私の感じたことは、斷じて叱つてはいかぬといふ事でした。そこで初めは極く窮屈のないやうに親しんで、一緒に遊んでやり、よい機嫌を觀ては、きつと出來さうな樂な所を聞いてやつて、それが出來ると褒めてやるやうにしました。かうして樂な好きな所からだんだんと進んで行つて『かう

すれば一層よくなりませう、うまく出來ました』といふ風に導いて行き、忘れた所を聞くのは恥でないことを敎へ『よく聞きました、分つて來たでせう』といふやうに奬勵をして行きました。それから段々興がのつて來ると、次第に復習の量をふやすやうにし、忘れた所は一應考へて見るやうに仕向け、最後に復習の結果を示して褒めてやります。一方母親にもよく此の子の氣質をお話して、褒める所を見出していただくやうにし、學校の先生にも御相談していろ〳〵奬勵の方法をとつていただきました。

翌年は果して成績も進み、勉强に興味を持つやうになりました、そこでよく前年の成績と比較して、其進境を認めさせるやうにし、其上奬勵してやりますと、自分から進んで不審も質し考察力も出て綴り方などはいつの間にか綴つて見せてくれるやうになりました。內氣な子では『一分叱つて九分褒める』といふやうな

ことが大事だと思ひます。

一三、病弱の二人の子を　救つた乾布摩擦

◇一年の後には體質迄變つた。カルシユーム質の食物も必要。

私には今年七歲になる男の子と、五歲になる女の子があります。二人とも誠に身體が弱く、氣候の變り目や秋の末から春の始めへかけては、どんなに注意しても風邪ばかり引いて居りました。その上腹が下るとか頭が痛いとか毎月お醫者の厄介になつて、藥の絕える暇はありませんでした。

ところが一昨年の秋の事、何かの本に、弱い兒には乾布摩擦が良いといふ事が書いてあるのを見て、醫師と相談の上其日から實行して見ました――弱いお子さんを持つて居られる方の爲に――私の此實驗をお話しようと思ひます。申す迄もな

く、風邪を引き易いのは、皮膚が弱いか、體質が纖弱に出來て居る爲で、斯樣人は何うかすると潜伏結核であつたり、肺結核の初期であつたりする事があります。風邪を引き易い兒を持つた親々は、此邊に注意して、平常から皮膚の抵抗力を増す樣にしてやらなければなりません。皮膚の抵抗力を増す爲には、冷水摩擦、冷水浴等いろ〳〵方法もありますが、これは却々實行の出來ない事で、それに腺病質の子などには反つて毒になる事がありますから、手輕で容易に出來る、乾布摩擦法をお勸めし度いと思ひます。

其方法は、朝起る時豫め用意して置いた手拭かタオルで胸のあたりを強く摩擦し、それから背中や脇の下を擦り、兩手から腹部、兩足と順々に皮膚が一寸赤味を帶びる程強く摩擦してやるのです。始め蒲團の上に半分起して（足を夜具の中に長く延させ）寢卷の胸を擴げて手早く擦り、それから寢卷を脱がせて背中を

擦るといふ風に全身に及ぼすのです。なるべく自分でやらせると運動にもなつて宜いわけですが、子供では力が足りない爲に、赤くなる程擦れないのと、愚圖々々して居ては風を引く虞がありますから、小さい子供なら、大人が擦つてやつた方が宜しい樣です。それから口を嗽ぎ顏を洗つて一寸深呼吸をすれば結構です。尙ほ此頃はカルシユーム流行りで、身體にカルシユームが缺乏すると風邪を引き易いと申しますから、カルシユーム含有量の多い食物（例へば貝類、豆類、牛乳京菜、小松菜、牛蒡等）を多く攝らせる事も必要です。

以上述べた方法を持續さして居る内に、二人の子供の體質は全然變つて仕舞ひました。一年の後には生れ變つた樣に丈夫になり、風邪一つ引かず、親子四人幸福に日を送つて居ります。

一四、猛獸の如き腕白者に　潜む純な氣質

◇腕力的勢力を組の統御に導き。魯鈍な頭を褒め乍ら啓發した。

私は曾つて海岸の或小學校に奉職して居た時、尋常三年を擔當して居た事があつた。處が其の級に學校一の亂暴な然かも低能兒が居て、同級生は無論の事、上級生迄自分の氣に食はぬと棒や机の蓋で毆り飛ばし、どうかすると大ナイフで突刺す事さへあつた。授業中ででも低能な爲授業に倦いて周圍の生徒を毆り、或時の如きは學校の門前を通る通行人を毆打し校長が訓戒すると腹を立てゝ校長の手に嚙ぢり付くといふ有樣で、實際學校一の厄介者であつた。

私は特に校長から其の生徒の居る學級を擔當する樣に願はれたので、乙竹教授の低能兒教育法を熟讀し、注意に注意を重ねて學校一の亂暴者を觀察して居た。

暫くすると其の亂暴者の父だといふ其の村第一の富豪がやつて來て『先生、あの兒は殺してもよいから一つ教育して見て下さい』と賴んで行つた。私も教育者として最もよい經驗だと考へたので喜んで引き受け、それから一層注意して此若い亂暴者を觀察した。其生徒は身體が大きく、然も非常に頑丈で、我儘ではあるが氣質の純な事が明瞭に分つた。そこで私はこの純な性質を傷つけぬ樣に、又彼の腕力的勢力を利用する方から矯正しようと試みた。

卽ち彼をなるべく叱らぬこと、又彼の腕力的勢力を利用して教室校庭の掃除の組長、遊戯の際、頭目指揮者として、時々賞讃の言葉を與へて督勵した。さうすると彼の亂暴は急に鉾を收めて、却つて非常に能く働くし、組内の者を實によく督勵して、私の言ふ事をよく聞く樣になつた。私は『これあ占めた』と大いに喜んで、今度は學科の方に向つて、なるべく叱らぬ寧ろおだてる樣にして、彼の

出來得る程度のものを課してやつた。一生懸命やつて出來上がつて、私に賞められると彼の喜ぶ有様は又格別なものであつた。かくの如く特殊の注意を拂つて敎育したので、私も非常に骨が折れたが、半年もたつ中に前とは打つて變つた元氣のよい善良な生徒、寧ろ敎師の下働きをする生徒となつてしまつた。彼の父は勿論校長も大いに喜んだ。

今でも忘れぬが三月二十三日卒業 證書修了證 書授與式をやつて彼は目出度く中位の成績で四年生となつた。私も東京高師に合格したので、同日の午後校長や彼の父達の發起の下に盛大な送別會を開かれたのであつた。先年東京高師の中村敎授は『敎育といふ言葉を一字宛離して、ローマ綴りにせば Osieru（敎へる）と Sodateru（育てる）となる。更に Osieru の中の i を a にせば Osaeru（抑へる）となり、Sodateru の S を省けば Odateru（おだてる）となるのだ。敎育は此の抑へる事と

おだてることとの二つが大眼目である。惡き方面は嚴格に抑へ、善良な方面はおだて〻益々發展せしめねばならぬといはれた事がある。

一五、買ふ欲望を矯めて　作る興味の方へ

◇用事をさせる時は靜な聲で。　繼子を躾けた發明家の妻。

私は早く夫に別れて暫く獨身で居ましたが、勸める人があつて貧しい發明家である今の夫に再緣したのであります。家には男の子が一人ありました、世間では繼母とさへ云へば繼子苛めをするものと思ふから、私はさう云はれたくない一心から、全力を注いで子供の敎育に奉仕する事としました。併し私は呆れずには居られませんでした、それは子供の性質がすつかり傷められて居る事でした。

夫は自分の研究に身も心も奪はれて、子供などは厄介扱ひにされ、泣けば叱り

飛ばす、傍に居て面白がつて遊んで居れば、喧しいと云つて、家計も豐ではない癖に錢を與へて遁遣ると云ふ樣な調子ですから、子供は齡に相應はぬ大金を平氣で使ふし、恁麼風ですから行儀作法を心得て居よう筈はありません。私は先づ半歲許りは手も口も出す事なく、夫の仕事を助けつゝ子供の性癖を呑み込む事に努めて最早矯正に取掛つても宜からうと思ひましたが、急げばまた例の繼子苛めと誤解されてあらぬ世評を受けねばならず、若しまた萬一誤れば却つて惡化するからと思つて、程度を考へて努力しましたが、遂に其の年の暮迄には何の効果もなく新年を迎へねばなりませんでした。

明けて元日と二日とは、餅のためにお菓子を買ふのが止みましたから、私は三日には夫と私と子供と三人で室内で遊ぶ事として、子供を外に出さずに、今迄壞して拋つてあつた澤山の玩具を箱の中から取出して、修繕したり組合はせたりし

て見せました。すると傍で見て居た子供がそろ〳〵と手を出して眞似をしますので、褒めて『遣つて御覽』と云ふと、其の日は終日外出しようともせずに、一生懸命にそれに耽つて居ました。四日は目を擦り乍ら、また取出して昨日の通りにやつて居ますから、私は更に簡單な手工をも敎へました。是が動機となつて卽ち作る興味に押されて買はうと云ふ慾望が無くなり、其の上幾分か創作心を養成しましたから、私は內心に手を拍たん許りに喜び、今度は子供の作つたものを私が一錢とか二錢とかで買つて、日一日と金の積んで行くのを喜ぶ習慣をつけるやうに仕向けました。――長い習慣で今更金を持たせぬといふ事は出來ない相談であつたのです――所が其の後は自分で勝手に買物をする事も無くなつて仕舞ひました。

其處で私は行儀作法を矯める方法を採る事にしました。此の子は輕率で物を云

ひ付けると『ハイ』と返事をしますが、直ぐ用事など忘れて仕舞ふと云ふ調子ですから、先づ第一に之れを矯正する事としました。その方法は、物を命ずる時は近く膝許に呼んで聞える程度の静な聲で落付いて（大聲を出すのは不可せん）頼み主義に云つて聞かせました。そして其場で此方で云ひ付けた事を覺えて居るか何うか一度云はせて見てから用達に立たせ、途中で遊ぶやうな悪習慣がなくなるやうに、時計を見て『何分間で行つてらつしやい』とか『何分間で仕上げなさい』とか云つて、一心に物事に從事すると共に、時間觀念を養成しました。其他人に對する挨拶とか、道具の出し入れとか、履物の脱ぎ方とか云ふやうな事は、多く繪本の説明によつて敎へました。恁うして二年後に近所の人達から『○○さんは好い子になつた』と云はれた時には、私は嬉し涙が思はず溢れました。

一六、讀み方の遲い子が　朗々と讀む迄

◇『早く〳〵』と促すのは悪い。子供は大人の縮圖では無い。

私の家には今年二年生になる兄の長男が居ます。兄は外的生活に專ら奔走して居るので從つて子供の躾けも充分行き屆き兼ねると云ふ點から、宅に引きとつて敎養して居る次第なのです。所が昨夏受持の敎師が家庭訪問して下さいまして『何うも御宅の子供は讀み方が遲いので困ります、今少し流暢に讀める樣に注意して戴き度い』との事でした。

爾來兩親も可成に骨折られる樣子でしたが一向讀み方が捗々しう參りませんので何うしたものだらうとの事でした。私も最寄の學校に奉職して居る身でありますが、高學級兒童を擔任して居ますので、先づ低學年受持の敎師とも談合し心理

學者の説にも聞き自己の教育的經驗に基いて晩餐後少憩の時間を利用して徹底的に研究すると云ふ態度に出ました。先づ初めに直覺したのは『私が讀む樣にもつとサッサと讀まなければ駄目だ等云ふ、通り一片の激勵の辭は幾度繰返すとも効の薄い不親切な仕打ちだと云ふことでした』兒童中心主義の教育が教へて呉れる樣に決して子供は大人の縮圖ではなかつたのです、子供は我々が讀む如く心眼を開いて意味を讀むものではありません。假名なり漢字なり個々の文字を別々に認識して進むので所謂拾ひ讀みをするのです。思ふに彼の『早く〳〵々々』と云ふ催促は一應尤もの樣ですが、子供の注意を極端に緊張せしめる結果、愈々以て明瞭に見得る範圍を一點に極限し、却つて讀み方を遲々たらしむる所以かと存じます。

乃で私のとつた第一の方法は、先づ眼と書物との視距離を適當にし、ポツ〳〵緩くり讀むのを咎める所か、寧ろ遲くとも正確であると云ふ點を賞揚しながら、

力めて反復練習させる習慣を躾けたのです。如何な子供でも數讀若くは十數讀すると中には自づと文字なり語句なりに親しみを覺えて來ますから、勢ひ語彙も豐富となり、樂々と讀む樣になるのは當然です。併し此處迄達するには相當の日子を要することを覺悟せねばなりません。補助的方法として讀み書かせ、讀み話させ又讀み聞かせ等して居る間に、何時とは無くスラ〳〵と讀む樣になつて仕舞ひました。初めの程は眼球運動だけでは足らんと見えて盛に頭まで上下へと動かしましたが、かゝる不用な運動も追々淘汰されて來ました。文字文章に親しませると云ふ所から課外讀本を使用したり、幼年向の雜誌類を宛行ひましたが、これ等も確かに成功を早める一助となりました。最早や彼此半年近くになるのですが、今日では學校から歸つた時と、登校する前とには、調子よく大聲を張り揚げて讀んで居ます。傍から聞いて居ても大層愉快で堪りません。

私の家の子供は何ちらかと申せば遲緩型式に屬して居る方ですから、餘所さんの敏速型式に屬するお子さんを模倣せよとは決して申しません。子供には子供相應の個性が有り、又兒童心意發達の狀態によりそれ〴〵違つて居ることですから視覺の働きなり、聽覺器管なり、乃至は咽喉や口腔に生ずる發音運動に故障が無い限りは、何んなお子さんでも或る程度迄迅速に、且つ正確に讀ましむることは可能であります。

一七、病褥の母を引受けて　幼い姉妹が家事を

◇七ッに五ッのいたいけ盛りで。　炊事から掃除、使ひ歩き迄も。

私は一昨年の冬、流感に罹つてから餘病も出て兎角思はしくないので、その年の十一月、七歳になるのと五歳のと、二人の女の子を連れて此の土地へ引移つて

來ました。夫からずつと此處に靜養してゐますが、何分にも病身の事とて家事其他の立働きが思ふやうに行きません。と云つて女中を雇ふ程豐な生活も出來ず、仕方なしに其の小さな子供達に家事の手傳ひをして貰ふことにしました。可哀さうですけれど是も女の子の一つの育て方だとあきらめるより外はありませんでした。

幸ひ二人の小さい子供達は、私の言ふ事をよく聞きわけて、夫からは朝は病身の私より先に起きて火を焚きつけてくれます。而してお湯の沸いた頃私も起き出して、室内の掃除から御飯の仕度と、皆三人で致します。子供達は直ぐそれに慣れて、妹の方が小さな手に皮むきを取つて、覺束なげにお大根の皮をむけば、姉は傍から夫をおろし、一人がお膳立てに取り掛れば、一人は御飯やお汁を盛るといふ樣に、二人は丁度飯事でもする心算で、仲好く樂しく大層忠實に働いて

くれます。それから室内の整理と庭の掃き掃除と、かなり重い釣瓶から水を汲む事と、使ひ歩きとが二人の役目でした。又此通り手の足りない家ですから、自分の事は自分でするといふ習慣をつけさせる爲めに、食事の時用ゐた食器等は各自に洗はせ、朝晩の床の上げ下しも、病氣などの特別な場合の外は、今迄一回たりと人手を借ず自分でするやうに致して居ります。『私たちが働けば働く程お母さんが助かつて早く病氣も癒るんだわよ』と姉娘が云ふと妹娘の方が尤もらしくほつくりをしてゐる事がよくありました。

昨年の一月と二月寒い最中をいつぱい私は床に就いて居りましたが、その時も到頭人を雇ふ事なしに二人の子供の手で無事に過ごして參りました。見れば姉娘の兩手一面にひゞが切れて、痛々しく血が流れてゐました。『お母さん手が痛い』と堪へ兼て夫が申しますと、私は心に此麼年頃の他所の子供達は皆据ゑ膳でお雛

樣のやうにして御飯を頂いてゐるのだと思ふと、涙がこぼれましたけれど、强ひて心を勵まし『痛いだらうが我慢おし、優しい細い手をしてゐる人よりも、働いてさうなつた手の方がどれ位立派だか知れないんだよ』と申し聞かせましたら、其子は夫で滿足して、一層勵んで家事にいそしむのには、近所の人達も皆感心して泣いて同情して下さいました。

昨年の春姉娘は土地の小學校の尋常一年に入學しましたが、初めから少しも他人に賴ることなく、二日目には折惡く雨天で、近所のお子さん方は皆父兄に手を取られて學校へまゐります中に、宅の子供は、元氣よく一人で出掛けて行きました。此樣に育てゝ注意深くなつた爲か、其後も學校の歸途雨に逢ひ、雨具の用意がない場合などは、却々うまく工風して書物や下駄や着物の濡れたり汚れたりしないやうに、歸つてまゐります。而して家にありましても、益々物事に責任を感

じ又萬事注意深くなつて、鳥渡した事でも、お醫者様などがお出でになると吩咐けなくとも手を洗ふ水を持つて來るとか、外へ遊びに出る前には、火鉢を覗いて火が絶えさうなら炭をついで行つたり、遊びの歸り路に用達しはないかと、必ず尋ねたりいたします。

偖自慢がましく長々と申し述べましたが私は斯うした躾け方が決して悪くない間違ひではないと信じてゐるので御座います。

一八、母乳の不足な兒を　玄米ソップで

◇丈夫に育てた私の經驗。四歳迄持續して人の羨む健康に。

私には今年四つになる男の子があります。生れた時は普通以上に丸々と肥つてゐましたが、乳が思はしく出なかつた爲め、段々痩せてお宮參りの頃には生れた

時の面影はどこへやら、見るも憐れに痩せ細つて仕舞ました。さあ家族や親戚の者は元より、お祝に來て下さつた方々迄が心配してくれて、是れでは小供が育たない、速く牛乳かコンデンスミルクでもやらなければと八かましく申します。

しかし私は牛乳やミルクで育てる事には大反對でした。と申すのはどうも牛乳やミルクで育つた子供には肥つて丈夫な樣でも實際虛弱なのが多い樣に思はれ、出來ることなら安全な母乳にのみよりたいと、家族や親戚の苦情を退けて、斷然母乳を續けて居りました。所が百日目頃には乳も少しは多量に出る樣になり、嬰兒も心配した程でもなく、營養狀態が可成り改まつて參りました。けれども豫期程ではなく確に幾分か不足の樣に思はれました。

そこで私は故石塚左玄先生の奬めた玄米の重湯を試みて見ようと、早速玄米を狐色に煎りそれでソップを作つて飲ませることに致しました。幸ひに嬰兒も喜ん

で飲み、二三ヶ月の後には實に見違へる程よく肥つて參りました。其後ソップを探つた後の始末に困るので、考へた末私の鄉里へ賴んで玄米を粉末にしたのを取り寄せ、これも矢張りソップの時と同樣に輕く煎つて、水にとき一寸煮てどろどろにして用ゐさせました。何分小さい兒に用ふるのですから極めて細い絹製の篩を通し始めの內は極く薄くとかなければなりません。子供が大きくなるにつれて重湯位から蕎麥がき位の固さにねり、一日數回づゝ與へて行きました。これを續けてゐる中にお誕生にもなりましたので、御飯を與へることになりましたが、御飯は半搗米で玄米の粉は相變らず續けて用ひさせて居りました。よく世間ではお乳から普通の御飯に移る時消化器を害し、時には種々の餘病をさへ引起すと云ふ樣なことも聞きますが、私の內では何の苦もなくこの時期を通過したのは、玄米ソップの恩惠ではないかと喜んで居ります。

こんな有樣で今は四つになりましたが嬰兒の時とは打つて變つて立派な體格になり、お湯へなど參りましてもお相撲さんの樣だと云はれるので子煩惱な私は何より喜んで居ります。俗に男の子は育て難い、急に高熱が出る樣なことも珍しくないと申しますが、私の子供は玄米を用ひてゐるせゐか、未だ一度も熱の出た事もなければ下痢を起した事もなく、今日迄藥といふものを知らずに參りましたので、見る人毎に羨んで居ります。

一九、我儘な弟を矯正した　優しい姉の愛撫

◇愛と强情との根氣くらべに。遂に我慢の角を折つた話。

私は八人同胞の一番上で、年も大變違つて居りますので、兩親に代つて、弟や妹達の面倒を見て居ります。十人十色で八人の兄弟は、皆性質も違つて居り

ますが、大した悪い癖もなく育つて居りますのに、今年十一になる弟だけは、兄弟中の悪い點を一人で背負つて立つた樣に、我儘で强情で、一時は兩親さへも持て餘して仕舞ひました。

朝は自分が早からうが遲からうが、起きて直ぐ御飯を食べられないと、大聲をあげて泣きわめき、十一にもなつて、何一つ自分でせず、着物から學校の道具迄も人に揃へさせ、其上お復習が嫌ひで、無理にさせると腹を立てゝ泣き出したり兄弟誰でも構はず相手にして喧嘩を吹きかけたり、まるで氣違ひのやうに荒れ廻ります。そんな風ですから學校の成績も段々悪くなるばかりで、此子一人居る爲に、家の中はまるで蜂の巣を叩き割つた樣な騒ぎです。勉强が嫌ひで泣虫で、親の言ふ事も聞かない樣では、行末不良少年とかになるのではあるまいかと、私も非常に心配になりましたので、何とかして一日も早く此の癖を直さうと、受持の

先生にもお願し、學校の樣子も伺ひましたが、斯んな子は何處へ行つても同じ事で、學校では先生に聞かれても何一つ答は出來ず、誠に不活潑なくせに、下の級の小さい子供をいぢめて困るといふお話でした。

そこで私も之は並大抵の事では矯正が出來ないと思ひましたので、其後は雨の日も風の日も四時に起きて、弟が目を覺す迄にはすつかり御飯の用意を整へ、笑顔でいたはり乍ら、着物から學校の道具一切を揃へ、みんなより三十分宛早く學校へ出してやりました。學校から歸れば、お菓子や好きなものをやり乍ら、三十分ばかり面白く復習をさせ、それから兄弟達みんな集つて仲よく遊ばせ、面白いお話を一つづゝ聞かせてやりました。斯うして次の日も次の日も、私も弟に負けず、寒いのも苦しいのも我慢して續けて行きました。母などはそんなにしては反つて我儘が强くなるばかりだからと申しましたが、私は今が大事の時、私が

負けては今迄の苦心も水の泡になりますからと、二ヶ月餘り斯うして續けて行きました。夫から勉强の時間を十分廿分と次第に長くし、遂に一時位にし兄弟達に喧嘩を吹きかけぬやう、氣を鎭めて、やさしい良心が茅ぐむ樣にと、靜に面倒を見てやりました。一方學校でも、先生が矢張り其お積りで、お淸書を集めさせたり、お晝の湯をくばらせたり、先生の代りに話させたり、ひたすら活潑になる樣にと仕向けて下さいました。

其内だん〳〵暖かになつて、朝起もさうおつくふでなくなつた頃機嫌の好い日を見計らつて『今日は一人で着物を着て御覽』と申しますと『ア、』と言ひ乍ら、ニコ〳〵して上手に着る事が出來ました。かうなればもう大丈夫です、私はこれ迄にするのに二ヶ月餘りかゝりましたが、機嫌好く自分で着物を着るのを見て、始めて心からホッといたしました。それからいろ〳〵な事を一人でさして參りま

すと、一週間目位には、もう何んでも一人で始末し、朝は兄弟達より早く起き、庭なども掃除をして、御飯も一人で出して食べる樣になりました。氣風も生れ變つた樣に優しく素直になつて、喧嘩などは忘れたやうにしなくなりました。

其後學校の先生がお見えになつて『此頃は大變活潑になつて、成績もメキ〳〵好くなりました』とお話し下さいますし、母は又『お前のおかげで子供一人直して貰つた』と申されます。私は斯う聞くと言ひ知らぬ感謝の涙を覺えるばかりで御座いました。

二〇、寒詣りを續けてから　早起の良習慣

◇弱い身體も見る〳〵强健になり。悪い成績も忽ち優等になつた。

私には本年十四歲になる弟があります。此の子は誠に身體が弱い上に朝寢の

悪い癖があつて、父や母は毎日早く起る様にと叱りますが、何したものか朝寝の癖が直りません。學校は毎日遅刻の有様で學科の豫習などは少しも出來ず、成績は次第に悪くなるばかりでした。兩親も此の子には匙を投げて、進んで勉強をさせる考へもなく、高等小學でも卒業したら、商家へ預ける方がよいと申してをりました。私は如何にも弟が可哀相で、どうか學校の成績の良くなる様にと、工夫を凝しましたが、それには先づどうしても復習よりも豫習を確りして置く必要があります。其爲には第一に朝起の習慣から付けて行かなければ駄目だと考へつきました。

所で私の村では寒三十日の間、毎朝村社へ寒詣りをする慣例があります。私も毎年寒になれば早朝參拜して居りますが、（社は私の家から五丁餘の所にあります）なる可く早くお詣りに行くと何だが自慢の様な氣がするのであります。丁度

昨年の冬の事でした、私は弟の爲めに、三學期の試驗の成績がよくなる様に、自分の代理の積りで弟に寒詣りをさせる事に致しました。初めは弟も苦しいと見えて、日の出る頃から出かけたので、到頭學校も少し遅れました。次の朝は最早や近所の衆が歸る時分に家を出掛けたので何んだか弟も氣まりが悪い様でした。それからそろ〳〵勵ましてやると、一日一日と少し宛早く起きて行く様になつて、恰度一週間目には近所の衆と一緒に行つて來れる様になりました。

爾うして居る内に弟も段々早起きの面白味を覺えたものと見えまして、此の次の朝は一番早くお詣りに行つてくるなど〵申して居りましたが、十二日目には薄暗い時分に飛び起きて出かける様になり、私共が未だ寝て居る時分に歸つて來て、母が朝飯の仕度の出來る迄外に用事も無いので學科の豫習をする様になりました。私は弟を勵ます爲に、弟の起る時には私も必ず起きて、お宮へ行つて

くる間に自分の勉強をして、弟が歸つて來ると、今度は弟に豫習をさせ、知らぬ處は敎へてやる樣に致しました。從つて學校も規定の時間には登校が出來ますし、學科も豫習のお蔭で次第によくなり、それから間もなく生れてから始めて豫想もしなかつた優等を取りました。それに今迄弱かつた身體も非常に强健となり、風邪一つ引いた事もなく、お宮詣りは濟んでも、朝起きだけは續けて居ます。

兩親も今では非常に喜んで此樣子ならば上の學校へも進ませたいと申してをります。昨年一月以來此早起きの習慣は一ケ年續きましたが、今年も寒詣りは弟の仕事にして、此間から進んで續けて居ります。

二、臆病な十歳の子供が　大連から一人旅

◇家の門さへ出なかつたのが。汽船を見てから旅行好に。

私共の長男は、今年十二歳になりますが、幼少の折には頗る因循な子供で、殊に他人樣の所へなど上るのを嫌がりました。暑中休暇などに一家揃うて海水浴へ參らうと致しましても、家の門を出るのを嫌がりまして困つた事がありました。然るに或る時知人が米國へ出立いたしますのを、横濱の埠場頭に見送りした事が御座いました。其時連れて參りますと、最初の程は、大きな汽船が山の如き形をして澤山に居るのを、如何にも驚いたと云ふ風で見て居りましたが、少し馴るに從つて『アノ汽船は何處へ行くの？』『何處から來たの？』と熱心に訊ねますから夫は遠い〳〵上海だとか、或は佛蘭西だとか見も知らぬ不思議な國へ行くのだと敎へてやりました。

其の日歸つて來ますと、アノお船の行く上海は那處にあるのか、佛蘭西といふ所はどんなお國かとよく記憶して居て聞きますから、地圖や寫眞帳などを出して

説明致しますと、非常に興味を持つて熱心に聽いて居りました。夫からといふものは自分から進んで『お船を見に行かう』と申しますから、機會のある度毎に横濱へ連れて參り、埠頭場まで行つては船を見せて居りました。所が段々船にも馴染み、艦てはこの船にさへ乘りさへすれば直に米國へ行く事が出來るのだから、行つて見ようかなど申すやうになりました。

一昨年の春主人が歐米視察に鹿島立つ時などは『僕も行くのだ』と申していつかな聞きませんでした程、今度は自分から進んで何處へでも出掛けようといふやうになりました。其の年の夏には、大連に居る伯父が一寸東京へ來て大連に歸るのを機會に、まだ十歳の子供を一人託して初旅をさせて見ました。最初親戚の人達の危ぶながつたのに拘はらず、頗る機嫌よく途中も無事で海陸千里の旅も易々と參り、一夏中大連で遊び、歸りには小さい兒が一人で歸つて來ました。それからと

いふものは、旅行好きになりまして、昨年の夏なども一人で信州の鄕里の祖母の處へ參りました。旅行好きといふ事は穴勝褒めた事でもありますまいが、旅を恐れぬといふ事は、男の子の今後の社會に處して立つ上に於て、必要な事だと思ひまして、次男なども機會のある毎に横濱に連れて參り船を見せては大に氣を養はせて居ります。

其の爲めか子供等は外國の地理にも馴染み、海外發展の思想とでも申すやうな氣合があります。特に申上るやうな躾方でもありませんが、因循な引込み思案な子供が、汽船に依つて快活な氣性になり、旅なども一人でドシ〳〵するといふ事も御參考にならうと思ひますから實驗談として申上げます。

二二、冷い父と優しい伯母の間に　恐怖から罪悪へ

◇子供から見た親の躾け方。　私が家出を決心する迄。

私は某中學校に通學して居る若い生徒です。本欄に寄稿するのは誠に僭越の至りですが、實の親に育てられて、遂に親しみを感じなかつた私の經驗も、愛兒の躾け方に苦心さるゝ人達に取つて、何にかの參考になる事もあらうかと、此悲しい思ひ出を綴つて見る氣になりました。

私の親に對する最初の記憶――幼い眼に映じた親の印象――は恐怖其物でした『お母様お菓子を』と云へば、默つて睨み付られました。併し幼い私は、食べたいものはどうしても食べたかつたのです。狂暴な食慾は私の生活の全部でした、到頭私は默つてお菓子を取つて食べる事を覺えたのです。而して『お前が取つて

食べたらう』と云はれると『知りません』と嘘を言ふより外に智慧はありませんでした。併し子供の嘘がどうして知れずに居ませう、後では一層ひどく怒られた上に、散々打たれ、『恐ろしい親』と言ふ觀念が、幼い頭に確り刻り付けられて仕舞ひました。

小學校へ入つてから學用品を求める時でも、私は『お金を下さい』と言ふ勇氣が無かつたのです、『又お金か、鉛筆を幾本買ふんだ』といふ恐ろしい叱咤と、それからそれと引出される長い〳〵お叱言が恐ろしかつたのです。私は默つてお金を持つて行つて、學用品を買ふより外には智慧が無かつたのです。小學校の先生は修身の時間に、默つて家から金を持出すのが、どんなに恐ろしい罪惡かといふ事を敎へてくれました。此時私の幼い心は、地獄の火の上に落て行く樣に慄へました、それでも私は父の冷たい叱咤と鐵拳を冒して『紙を買ふのですから』とは

言へなかつたのです。『金を費ふ氣にばかりなりあがつて』といふ言葉は、幼い頭腦にどんな響を持つか考へて下さい。食事の時などは、兩親は別においしい物を食べても、私は、『子供に贅澤をさせぬ』といふ主義の下に、雇人と一緒にまづい物を食べさせられました『之が本當の親であらうか』といふ恐ろしい疑ひが、幾度も私の胸に浮んで來ましたが、何う疑つて見ても矢張り本當の親には相違なかつたのです。

私の心は、年と共にひねくれて行きました。小學校を卒業した頃到頭家出をしようとさへ決心したのです。併し私には唯一人の親切な伯母がありました、私の事をよく知つてくれて、時々『これ丈けしか持つてないが』と言つてお小遣をくれる事もありました。私は涙の出る程感動して居りました。そして將來キット恩返しをしようと思ひ乍らも、伯母の貧しい財布を見ると、私は何時でも『伯母さ

ん有難う、僕はその半分で澤山です、それで間に合せますから』と言ふ氣になりました。伯母の優しい言葉と、眞心こめた贈り物は、陰氣にひねくれた私の心に何時でも春の日の樣に溫かい光りを與へてくれました。伯母は私の御恩返しも待たずに死にましたが、私の心の中には、何時迄も〳〵生きて居ります。私の家出の決心を飜へさしたのは此親切な伯母の愛であつたのです、あの時私が家出をしたら、今頃どんな人間になつて居たでせう。

其後私は信仰の生活に入つて、もう兩親を怨む心はなくなつて仕舞ひました、『氣の毒な親達』私は出來る丈けの孝行をしませう。そして默つて金を持ち出した罪も、今では心から悔いて居ります。其後幾變轉の後、私は或人に救はれて、此學校に通學し、信仰生活の其日々々を過して居るのです。

二三、忘れ物の癖を矯めて　劣等生が優等に

◇成績の悪いのは大抵不注意から。　注意力から養ふ私の躾け方。

私は暫くの間某家の一愛兒の教育を依頼されました。その子供は非常に成績が悪くて進級も難しい程でした。そこで私は最初その子供が本當に低能であるのか或は生來怜悧であつても事情のために成績が悪いのかを調べて見ました。先づその家庭を見ますと非常に人の出入の多い騒がしい家であることゝ、一人子のために兩親が溺愛して何事も人任せにして、自分の事は自分ですると云ふ習慣のないことを知りました。

次ぎに小學校の先生について質して、愚鈍ではないと云ふ事と毎日必ず忘れ物をすると云ふ事實を知りました。其結果私はこの子供は怜悧な質ではあるが落着

きがなく、物に精神を集注せぬ結果成績も悪く、毎日忘れ物をするのであらうと考へました。そこでこの子供に繪をかゝして見たところ、果して巧拙は第二として、實に亂暴な繪をかきましたので、私は自分の豫想の誤りでなかつた事を喜びました。で、私は成績の事などは心配することは無い、唯注意力を増してやらう忘れ物をしなくなれば先づ事は半成つたものであると考へました。

そこで、最初約半ケ月は子供が學校から歸ると形式的に復習をさせて後、翌日の道具を鞄に入れさせました。時間割に依つて教科書、帳面を入れ次に筆入をあらためて鉛筆が尖つてゐなければ削らせ、豫備の分も入れて仕舞はせました。半月許りは子供は之を非常に面倒がりましたから、私が一々算術の時間には何が入りますかとか明日は、何と何とが入りますかと聞き乍ら用意をとゝのへてやり、夫から十日許りは子供自身に入れさせて、私は夫を充分監視し忘れ物の有無を檢べ

ました。それから一ト月目に知らん顔をして、勝手に入れさせ、別に檢べても見ずに翌日學校に行つて忘れ物の有無を先生に伺ますと、幸に『無かつた』との返事で私は思はず『占めた』と喜びの聲をあげました。其後は二三日隔き、一週間隔き位に勝手に自分で翌日の準備をさせましたが、もう忘れ物をしなくなつたばかりか、翌日入用の品がないと直ぐその場で買つてでも調べなければ承知しない様になりました。

私はかうなればもうよからうと思つて、そろ〳〵學科の方にとりかゝりましたが、元より愚かでない子供ですから、注意力が出て來ると共に、理解も早く、理解すれば自然と興味も出て來て、成績もだん〳〵と良くなつて來ました。約四ヶ月の後には、一時進級の望みのなかつた兒童が優等生の仲間に入る事が出來る様になりました。

私は元來小學生に家庭教師は不必要であり更に家庭に於ける復習も大して必要を認めないのです（少し極端かも知れません）子供の成績の悪いのは多く不注意から起ることで賢愚は大した問體でないと思ひます。この不注意を具體的に表すものが忘れ物で、忘れ物をしない様にするには、無理に忘れ物をしない様にするよりも、子供が自身から興味を以てすべてを處理するの習慣を養ふのが最良の方法と信じます。

二四、日光と空氣と水と土で　愛兒の體格改造

◇死の宣言を受けた愛兒を。　潜伏結核から救つた苦心。

死の宣告を受けた愛兒を助けた私の苦心談を申上げます。私の子供は腺病質で秋口から春へかけては風邪の引き通しで、夏は消化器が弱い爲に、下痢ばかり起

して居りました。大正五年五歳の折には、流感から肺炎を起し、四十度前後の熱が一ケ月も續き、一時は醫者からも見離されましたが、幸生命だけは取り止める事が出來ました。

併し病後の衰弱が甚しく、親の慾目にも此兒が無事に育つものとは、何うしても思はれない程に弱つて仕舞ひました。其後上京の序に、小兒科の某大家に診て頂くと、潜伏結核があるから、今の内に注意して、身體を改造しなければ駄目だとの宣告を受け、今更乍ら暗い淵に突き落された程驚きました。此上は何とかして此一粒種の子寶を助け度いと思ひ、先づ所謂營養療法を試みて努めて滋養に富んだ食物を多量に攝らせ、運動をも充分にやらせましたが、益々消化器を悪くして、體重は減り、貧血を起すばかりで、何んの効力もありません。それから種々新聞雜誌などで見受ける强健法も試みましたが、此兒の體質に適さない爲か、

何時迄經つても一向効果が現れませんでした。其内に子供は七歳の學齢に達しましたが、世間の五歳位の小兒と同樣で、學校へ上げる事などは思ひもよりません私共夫婦は此兒の暗い將來を思ひやつて、失望落膽するばかりです。

其内に私はフト『自然の力』といふ事を思ひ付きました。――日陰の花の弱いのは何故か、都會の兒の健康でないのは何故か、それは自然の恩惠を受くる事が少い爲ではないか――斯う考へて來ると、浴びる程藥を飲ませるよりも日光や空氣や水や土といふ樣な、潑溂たる自然の恩惠に浴せしめた方が良くは無いか、と思ひ當つたのです。

忘れもしないそれは大正七年の六月でした。私は卽日子供の身體に光と空氣と水と土を應用する事に取かゝりました。先づ第一にやらしたのは日光浴です。朝の九時頃と午後の五時頃と、毎日二回宛、(あまり强い日光を避けて) 全身裸體と

して緣側に立たし、始めは十分か十五分位 充分日 光浴をさせます、此際注意を要するのは、頭部に充血を起させない樣に、帽子を被せる事です。漸次身體が慣れるに從つて、二十分、三十分と時間を延長して一時間位にして行きます。子供は始めは嫌がりましたが、だん〳〵心地よくなると見えて、數日の後には自分から進んでやるやうになりました。それから次は空氣浴です、之は曇天で日光浴の出來ない日にやらせるので、風の當らぬ所で全身裸體にし十分から一時間位、皮膚面に空氣の作用させます。第三の冷水摩擦は、毎朝やらせるのですが、子供では力が足りませんから、大人の手で、冷い水で絞つた手拭で皮膚が赤くなる迄摩擦してやります。摩擦する方法は、よく筋肉の狀態を研究して、筋と併行して摩擦しなければなりません。最後の土の應用は、跣足にして朝露を踏んで歩かせるのです。

私は此方法を根氣よく續けましたが、八歳で小學校に上る時は皮膚も赤味を帶び、體重も人並となり、從つて內氣な性質も著しく活潑になりました。其後今日迄も之を繼續して居りますが今では風邪一つ引かず、見事に頑健な體格に改造する事が出來ました。最後に冷水摩擦や日光浴は珍しい事ではありませんが、空氣浴といふ事は、未だあまり知られて居りません。之は體內の老廢物を排泄し新陳代謝を旺盛にし內臟や神經系の機能を亢進して、極めて効果の多いものですから、弱いお子さんには是非お勸め致します。

二五、學校嫌ひになるのは 不得手な學科から

◇算術嫌ひの子を一年休まして。 自宅で仕込んだ私の經驗。

先年田舍へやつて居た子供を引取りましたが、どういふものか學校へ行く事が

嫌ひます。朝起きるのも顏を洗ふのも御飯を食べるのも愚圖々々して居て、それから凧や飛行機を持ち出していぢくつて居るので、學校は毎日遲刻ばかりして居ます。或時先生から呼出しがあつたので行きますと、『お宅のお子さんは毎日遲刻ですが、學校へ來る前に何か内職をおさせになりますか』と云はれました。

それで私は翌日から子供を送り出して、後をつけて行きますと途中で犬が喧嘩をして居ればそれを見、下駄の齒入屋が仕事をして居れば傍に立つて眺めて居るといふ有樣です。で私は翌日から五分十分と子供に知れない樣に少しづゝ時計を進めて送り出しましたが、子供の途草する時間が長いので、それでもまだ遲刻は止みませんでした。その後私は十日の間遲刻しなかつたならば、御褒美をあげますといひましたが、それでも遲れ勝ちでした。すると、或日先生から『御宅の子供さんは二三日學校へお出がないが、缺席屆をお出しなさい』といふ文面の手紙

が來ました。まあ何たる事でせう、彼は隱れ遊びをして居たのです、それで私は子供を呼んで隱れ遊びをした理由を問ふと『算術がさつぱり判らないの、出來ないと先生に叱られるから』と答へました。之を聞いて私は成程今迄何にも知らない爺さんの家に居て、復習も豫習もしないからさうであらうと思ひました。

然し出來ないというてもどの位出來ないかと驗して見ると、驚くではありませんか、尋常三年位の資格しかありません。これで五年の授業を受けては皆自分らないのも尤もだと思つて、それからは學校へ行くのを止めさせ、家で算術のみを勉强させることにしました。先づ私は尋常二年生算術教科書（教師用）を買つて來て教へますと子供は馬鹿にして『そんなもの』といふので、私は『出來れば結構然し一度教へたことは二度と教へませんから』と戒めて置きました。かうして二年用三年用四年用と進んで行つて愈々五年用に取りかゝつたのはその年の十月で

した。この本になると難問があると見えて、頻りに出來ないといふので私は『今迄習つたことを覺えて居れば必ず出來る、新しい算法は例題に出て居るから』といつて決して敎へませんでした。之が爲一日に一題しか進まなかつたことさへありますし、然し翌年の三月頃迄にはそれも何うやら彼うやら終へ、其後は算術に非常に興味を持つやうになりました。

そのうちに新學期が始まつたので再び學校へやりましたが、今度は朝も早く起きて遲れないやうに行くやうになり、七月の末に通信簿をもらつて來た時には算術はじめ數科目が甲で悪い學科はありませんでした。それで私は次のやうなことを思ひます、學校を嫌はれる御子さんは、多分科目に不成績なのがある爲ではないか、若しその不成績な學科が好成績否普通になれば、その科目に趣味を持ち隨つて學校へ行つて先生に褒めていたゞかうと思つて行かれる樣になるだらうと思ひ

ます。

二六、菓子を忘れる程遊ばして　間食の癖を矯正

◇買食までする樣になつた兒を。叱らずに愛と忍耐で。

私の長女は家事の都合で、四歳から田舍で育てゝもらひましたが、それから二年經つて漸く手元へ引き取る事が出來ました。長く離れて居た爲に、兄弟の折合が悪い上に、田舍で老人が可愛がり過ぎて、言ふが儘に菓子でも何でも與へたので間食の癖が付いて居り、其矯正には非常に苦心いたしました。

田舍に居る時は、朝目を覺すと床の中からお菓子をねだり、朝食は僅か一杯の御飯を殘して止して仕舞ひ、箸を置くと又直ぐ菓子で、終日手から菓子をはなさぬ有樣で、三度の食事は一杯も頂かぬ習慣になつて居りました。是では體の爲に

も悪いし、多くの兄妹達にも悪影響を及ぼすだらうと、泣いても成べく與へぬやうに致して居りました。處が近所の子供達が駄菓子屋で買食ひをして居るのを見ると、菓子屋の店先きで欲しさうに眺めて居たり、どうかすると女中などがお剩錢を棚に置き忘れて居ると、知らぬ間に持ち出して買食ひをするやうな事もありました。是を知ると私は非常に驚いて、多くの子供も家事の忙しいのも殆ど放つて一意其子の悪弊を直すことに腐心致しました。

先づ女中に金子など子供の目につく處へは絶對に置かぬ樣に命じ、兄達には菓子屋の店先に居た時は、言葉優しく連れ歸る樣に申付けました。さうして成可くその子の外出せぬ工風をして、種々な玩具を買ひ與へ、朝は私と一緒に二人の女の子を起して、床の中から唱歌を歌つて起き、三人で庭に下りて毬をつくやら唱歌を歌ふやら、女中が食事の知らせをする迄機嫌をとり、それから漸く朝食を

攝らせました。お目覺のお菓子がない上に運動をしたので、充分空腹ですから、何時になく二杯半も御飯を頂きました。すると滿腹ですからすぐお菓子をと申ません、それ幸ひと又三人で遊んで、十時を打つと共に駄菓子の成べくきれいなのを少しばかり與へました。駄菓子は悪いかもしれませんが、食べさせぬと尙欲しがるのが子供の通性ですから、是非なく買つて與へました。そしては又繪草紙を切つたり、人形を作つたりして遊ばせましたが、菓子を思ひ出させるので飯事だけはしませんでした。

遊びあきると其の子や妹などの生た當時の思ひ出や、幼い時の話など面白く話て聞かせ、眞にこの母のお腹から生れた兄妹であると感じさせるやうに仕向けて居りました。それから午後の三時には珍らしい菓子を買つて置いて『今日は母樣の上げるまでおねだりしなかつた御褒美に、こんなきれいなお菓子を上げます

と與へましたら、大變喜んで頂きました『明日もおとなしいと、もつとよいのを上げますよ』と勵まして置きました。

斯う云ふ風にして一週間ばかり注意して居りましたら、十時と三時を樂しむやうになり、追々成長するに付て三時一回と定めて仕舞ひましたが、只今は滿足して、菓子屋の店先などへ行かぬ樣になり、體も至極健全で、多くの兄妹も眞の兄妹であつて、此兩親の子であると思ふやうに成つて參りました。

二七、驚きと怒りの前に　呼吸二つの辛抱

◇愛兒の短氣と周章てる癖を。　直した私の實驗。

私どもの子供は大の臆病もので、少しのことにも驚き周章てる癖がありましたどうかして幼い間に、直してやり度いと、種々苦心の末主人の思ひつきで、たしか六歳の春のことと記憶しますが『物に驚いてビクリした際には呼吸を二つする間ジツと辛抱をして居なくてはなりません、夫れで尙ほ驚きが收まらなかつたら聲を立てるなり立ち上るなりして差支ありませんが、兎に角呼吸を二つする間だけは我慢して、落ついて居なくてはなりません』とよく〳〵言ひきかせ、時には主人と牒し合せて、子供が無心に遊んで居る際、主人が隣室で一寸物音を立てると、同時に妾は子供をしかと抱しめ『〇ちやん呼吸二つの間ですよ』と注意して驚愕の念を抑へしめ、此呼吸二つする間の辛抱と云ふのを標的に、種々訓練を重ねました。

其結果僅六七ヶ月の後には心中には驚いて、目付や顏色は變へても、體丈けは落ついて狼狽の醜態をあらはさなくなりました。偶々お友だちが雷鳴に驚いて家の内に逃げ込んだりするのを見ては『幾分怖いからつてタツタ呼吸二つする間の

我慢が出來ないとは弱いなあ』と他人が聞いては一向譯の分らぬ自慢をする樣になり、思ひの外の成功を收めました。又此子供は氣短かで憤りつぽく、始終近所の子供と喧嘩をして其爲め幾ら他人に頭を下げさせられたか分らない位でしたが周章てる癖の矯正に成功したに鑑み、其冬から今度は短氣の癖の方に應用しまして、『腹の立つた時には、呼吸を五つする間、ジツト我慢をして、相手が何と仕かけて來ても、此方から手を出したり口をきいたりしてはいけません』と訓戒し、偶々喧嘩をした際には、其喧嘩の起りの善惡は第二として豫ての戒めを守つて、呼吸五つの間我慢したか否かをとり訊し、或は賺し或は褒め苦心慘憺の結果之れも一年立たぬ間に立派に成功しました。

此慮病で短氣であつた子供は今は中學の一年生と成長いたしました、勿論生來が生來ですから、膽力や度量で人樣に誇る譯には參りませんが、唯變事に逢つて

周章狼狽したり、激昂の餘り前後を忘却する樣なことは斷じて無く、如何なる場合にも、心中は分りませんが、外から見ては、泰然自若として物事にも動かされないのは、全く苦心の結果と喜んで居ます。

二八、野良仕事の兩親の傍に　日光と土の恩惠

◇子供は斯うして丈夫に育つ。　終日畑のほとりに遊びくれて。

私は千葉縣の田舍に住む農夫ですが、夫婦の間に今年五歳になるのと三歳になるのと、二人の子供があります。五歳になる子供は、何うした譯か生れ付き胃が弱く、醫者に診て貰つても當分の中は、少し良くなりますが、直に元通りになつて、段々健康が思はしくなくなるばかりでした。

私共夫婦は何んとかして丈夫な子に育てようと、あらゆる方法を盡して、良い

と言ふ藥は全部試みて見ましたが、よく〳〵慢性になつたものと見えて、少しも効能が見えません。それに不思議に此子は赤飯とか餅とか消化の悪いものが好きで、一度見たら最後、やらないと一時間でも二時間でも泣き續けて居ります。その上身體が羸弱い爲か風邪を引き易くて、冬になると、五枚も六枚も重ね着をさせ、なるべく寒い風にあてない樣にして置きましたが、それでも絶えず風邪を引いて、私共夫婦の心配の種になつて居りました。

此樣な有樣であらゆる手段も盡きて仕舞ひ、『此上は成行に任せるより外に仕方はあるまい』と暫らく自然の儘に放任して置く事にしました。所が――私共に居た子守女が、病氣の爲め急に故鄉の秋田縣へ歸る事になりました。あまり急の事で一寸代りの子守が無かつたので、其翌日から三歳になる子を背負籠に入れて、私と妻は畑へ稼ぎに出なければなりませんでした。併し小さい子は遊び相手が無

いと一日私共を働かしてくれませんので五歳になる子もみんなと、一緒に畑へ行きました。私共は額の汗を拭いて、一生懸命に働いて居る間、二人の子供は終日畑の中で思ふ存分に遊び廻ります。

太陽の光を一杯に浴びて、新しく掘返した土の香を呼吸し乍ら、二人は汗と泥とになつて他く事なく飛び廻つて居ります。草つ原に寢ころんだり、名もない草花を摘んだり、石を拾つたり、土を掘つたり、子供の遊ぶ材料は其處にも可成り澤山ありました。暖かな日は、二人共シャツ一枚にしてやります。而して夕方家へ歸る時は、空腹と疲勞とで大人も子供もへト〳〵になつて居りました。一番運動の激しい五ツの子は夕飯もそこ〳〵にして、薄明るい内から床の中に入ります而して快い熟睡に落ちて、朝まで石塊の樣に寢込んで仕舞ふのでした。

日を經るに從つて、子供の顏は日に焦けて赭黑くなりましたが、夜泣きの癖の

あつたのも、何時の間にやら癒つて仕舞ひ、四肢に活氣が滿ちて、間食を止した所爲か、長い間惱まされた胃弱も、忘れた樣に全治して仕舞ひました。それから風邪を引く癖も、厚着の癖もなくなつて、今では見違へる樣な丈夫な子になりました。私は此偶然に覺つた健康法を天の助けと感謝して、弱いお子さんを持つ人達に勸めて居ります。

二九、持て餘された長男を　手づから教育

◇學校を休まして好な大工遊。箱を作り乍ら性格の改造。

私が長男を產んだ時は、產後の肥立ち惡く、乳が少しも出ませんので、或る村の農家へ里子に遣しました。夫れに引かへ三年後に生んだ次男は私の乳で育つたので、夫も私も蝶よ花よと溺愛して育てました。

其うちに長男は八歲の春を迎へましたので、學校へ入れる爲めに引取りましたが、生れて間も無くから滿七ヶ年間も里で育てられた爲か、何うしても兩親に親しむ氣がなく、決して父さん母さんと呼ばず、厭に私等の顏色許りを窺つて、三度の食事さへも遠慮して居るやうな樣子で御座いました。其癖一度び外へ出ようものなら、忽ち餓鬼大將に成つて惡戲をしたり、他所の子供を泣かせたりするので、毎日近所から苦情を持込まれる有樣でした。夫のみか毎朝學校に行くふりをして本を抱へて家を出ましても、學校へは行かずに御寺の境內あたりで遊んで居て、夜に成つても歸らぬ事があるので、其度毎に警察へ屆出るやら里親へ聞合はせるやら、大騷ぎをした事は、毎月何回あつたか知れません。

斯樣な次第で學校は遂々落第する、短氣な夫は、外聞が惡いから最う學校へはやらぬと怒りましたが、長男は却つて其事を嬉しがつて居るやうで御座いました。

之と反對に次男は柔和で女の樣に愛くるしい所があつたので、自然愛情は次男に注がれ、親さへ長男を持て餘した位ですから、次男も兄を兄とも思はず、長男が小言を言はれると、却つて手を拍つて喜んで居るのです。其中に私は、長男の將來を心配し、無理に夫に願つて、やつともう一年學校へやつて貰ふ樣に致しました、けれ共彼れの性質は依然として變らず、學校に行かない日が多かつたので、先生からは度々手紙は來る、時には先生自身に御出でに成ると言ふ始末です。其處で私も、最う長男を學校にやる事を一時思ひ止り暫く彼れの樣子を見て居りました。

長男は學校へ行かなくともよい事に成つたので、大に喜んで毎朝早くから夜遲くまで外で遊んで來ました。妾は或時彼れの跡をつけて見ますと、とある指物屋の仕事場へ行つて、何時迄も〳〵職人の仕事をジッと見て居るのです。其處で私

も首肯する所がありましたから、其翌日小刀や鋸の樣な物を買つて與へ、其後毎日『今日は何々を上手に拵へておくれ』と賴みますと、喜んで引受けて、其後は外へ出ずに、毎日物置小屋へ這入つて、妾に命ぜられたもの丶製作に熱中しました。出來上つた時に私は其技巧の上手下手に關せず好く出來たとほめては褒美を與へました。

夫れから私はダン〳〵六ケ敷いものを命じました。例へば深さ八寸五分の横縱五寸三分の箱と言ふやうなものでした。是れには長男も困つたやうでしたので、私は雜記帳を出させて、よく敎へ乍ら是れを書取らせました。彼れは間違つては大變だと思ふので、何回も何回も讀んだり書いたりして、記憶しようと努めました。斯くして氣長に手の敎育をして居るうちに、大分漢字なども知り、同時に算術や其他のいろ〳〵の學問の方にも趣味を持つて來たので、又夫に願つて學校へ

やつて見ますと、其後は生れ變つたやうに成績優等で、十五の春無事に小學校を卒業し、今は十七歳になつて或る工業學校へ熱心に通つて居ります。

三〇、火の氣と叱言は禁物で　喧嘩は仕放題

◇一日陽の當らぬ家に住んで。　自由に丈夫に育つ五人兄弟。

私の宅は西向で、裏には大木の繁つた山が三反歩もあり、南の方は山と谷で塞がつて晝過ぎの一時頃やつと庭に日がさすばかり。こんな寒國邸と別名を付けられる樣な寒い家で、五人の子供を育てゝ居りますが、一昨年から誰れも風邪を引いたこともありません。昨年は三人共揃つて小學校から精勤賞を頂きました。

長男は三年間一日も休みません、只今は中學一年ですが遲刻が一回だけです。恰度三歳の時までは病身で、醫者からコンナ寒い邸へ引越しては駄目だと云はれ

ましたが、五人の子供の健康法に就ては細心の注意を拂ひ、幸ひ今日までたいした病氣は致しません。却つて寒い邸は皮膚の抵抗力が強くなるので、病氣に罹らぬのではないかと思ひます。其上私共では昨冬から一層改善して、何んな嚴寒でも炬燵は申す迄もなく、火鉢にもあたらぬ樣な方法を採り、火氣を遠ざけて居りますが、子供等は火の氣の無い事などは平氣で、嬉々として活潑に遊んで居ります。節分の翌朝などは、あの雪の中を十四五町もある小學校へ勇ましく登校して今日は愉快だつたと申して歸りました。

コンナ譯で病人や特別に弱い子供は別として、普通の健康の子供なら寒い家の方が感冒にも罹らず、却つて良いのではないかと思ひます。さうして身心が引締つて頭腦も明晰になる樣です。更に私の家庭では、躾け所か全然放任主義です。兄弟喧嘩は勝手次第『勉強せよ、復習はドウか、そんなお行儀は悪い』とか言ふ

様な小言は言はず、決して叱責も致しません、實際の放任です。何れの御家庭でも五人の兄弟があれば喧嘩は絶えませんが、私の所も御同様で、寄ると障ると喧嘩をはじめます。併しいくら喧嘩をしても止めたとは一度もありません。いくら親に其の事情を訴へましても、『知らぬ〳〵、ソシナことは兄弟で作つた喧嘩で、私が拵らへた問題でもなし、自分達で成敗を定るがよい』と申して決して取りあげません。さうして掲示板に喧嘩の度數を一年間怠らず記入して置ました。子供はそれを見て、『あゝ馬鹿馬鹿しい、モー喧嘩は之れからよした。その暇に勉強でもしよう』と申す樣になり、近頃はちつとも喧嘩をしない樣になりました。

勉強も注入的では駄目で私は毎學期の成績表を掲示して、一週間三度位之れを御覽なさいと敎へて遣ります（子供の躾け方實驗談を讀んで感ずる所あり、成績表掲示は撤廢しました）さうしますと、自然に成績表の所へまゐり、この點が悪

い、あの學科がいかぬと氣が付き、しらぬまに復習をして居ります。かうして小學生三人は各々十番以内の成績です。決して日課とか時間の制限とか云ふものを定めず、徹頭徹尾自由勝手にしてあります。之では嘸かし行儀が悪からうと思はれる方もあるでせうが、事實は全く反對で、學校の素行點は皆んな甲を頂いてをります。而して私は子供の行爲の良不良の岐路に、最も微細な注意を拂つて見て居ります。

三一、放任主義を改めて　我子に早敎育

◇家庭を宛然幼稚園に。　四歳で假名も數字も判る。

私は天にも地にも替へ難い可愛い一人子の爲めに、日頃の躾方をお話して、御經驗ある方々の御意見を仰ぎ度いと思ふのであります。扨私の子供は今年四つの

悪戯盛りですが、小さい時には却つて放任して置く方がよいと考へ、種々な野卑な言葉や、つまらぬ唄などを覺えて來ても氣にかけず、殆ど自然の儘に任せてありました。

所が恰度昨年の今頃でありました。主人の友人が遊びに來られ、或本を貸して下さいましたので、私は早速讀んで見ましたが、それは外國の或人（母親）が女の子供を襁褓の内から種々と工夫して敎育された結果、十二歳の時には既に立派に大學を卒業したと云ふ事が書いてありました（ストーナー夫人の天才敎育に關する著書か）私はそれから今迄の方針を一變し、とうちやん、かあちやんといふのはおよう樣、おかあ樣と、ワン〳〵は犬と云ふ樣に、正しい言葉に訂正する樣にし、運動の外には成るたけ外出するのを避け、お友達を澤山宅へ迎へ、私は幼稚園の保姆になつたつもりで、一緒に遊び乍らいろ〳〵の事を敎へる樣にしま

した。すると次第に言葉も改まり『バイのバイ』などは何時となく忘れ、その代りに桃太郎さんや、舌切雀の遊戯や唱歌を喜ぶ樣になり、お客樣の前で親達が顔を赤くする樣な事は少くなりました。

私は夫からと云ふものは、朝夕ます〳〵子供の爲に工夫を凝らす樣になりました。當時子供は漸く三つまでしか數へる事が出來ませんでしたが私は五色になつた五つの輪から出來てゐる玩具を求め、それで遊ばせ乍ら五つ迄數へる事を敎へました。その内にそれも倦きて見向きもしなくなりましたので、今度は片假名を書いたコルク製の賽で十まで數へる事を敎へ、傍それを利用して片假名を敎へました。斯うして手をかへ品をかへ、負けず倦きず繰りかへして、今日迄續けて參りました。今では筆の持方もどうやら相當に馴れ、曲りなりにも片假名位は書けます。又數字も覺え二十位迄は何の苦もなく數へられる樣になりました。此の

分では學齡までには未だ三年ありますから、その頃迄には或は尋常二三年程度迄進める事が出來ようかと思つてゐます。從つて卒業迄には、餘程進んだ教育が出來はしまいかと樂しんでゐます。

併し是れが果して良いか悪いかは遠い將來でなければ確められません、兎に角子供は適當に導けば、案外容易に覺えるものであると云ふ事だけは事實であります。世間でよく放任（主義）がよいとか、干渉（主義）がよいとか、又中には重寶な中庸説を説く方もありますが、結局此の問題は躾方の大部分でないかと思はれるのであります。私は己の經驗から推しますと子供は絶對に放任すべきものでないと考へるのであります。

三二、小山の上に朝日を浴びて　木蔭に愛の學校

◇學業の遲れた神經衰弱を。　親が手を取つて野外教授。

私には今年十一歳になる男の子があります。此子が四五歳の頃非常に身體が弱くお醫者と藥の顔を見ない日はない位でしたが、到頭子供には珍らしい强度の神經衰弱だといふ診斷を下されて仕舞ひました。一日に七八回もひどい頭痛や眩暈がして、同じ年頃の子供に比べると、非常に物覺えが悪く、それに内氣で外へ遊びに出る事が嫌ひでしたから、一日家の中でごろ〳〵して、時々頭が痛むと云つては泣き出します。

嬶て七歳の學齡に達しましたが、學校へ上る事などは思ひもよりません。そこでどうかして治してやりたいと、夫婦いろ〳〵相談の上、妻は貧しい中の内職を

捨て、全然此子の遊び相手と看護に身を委ねる事に決心しました。所が忘れもしない大正六年の五月中頃の事でした。ツイ附近の飛行場で、飛行機の練習があるといふのを聞いて、私はあまり進まない子供を伴れて、飛行機見物に出かけて參りました。平常内氣で滅多に外へも出ない子供が、飛行機の空高く飛ぶのを見た時ばかりは『面白い〳〵僕も乘つて見たいなア』と繰り返し乍ら手を拍つて喜びます。其後二三回見物に伴れて行きますと、廣々とした靜かな野邊を飛廻つて、思ふ存分に新鮮な空氣を呼吸するのが良かつたものと見えて、其後頭痛も幾分か少くなり、元氣も大變付いたやうに思はれるのです。

私は此經驗に力を得て、晴天でありさへすれば、毎日山へ遊びに伴れて行く事にしました。それは飛行機見物以來、此子は高い所を好む傾向を持つて居ると氣が付いたからです。それから私は此子と一緒に毎朝早く起きて、新鮮な空氣を呼

吸し乍ら、叢を分け林を脱けて、あまり遠くない小山の絶頂へ登つて行きました。清い空氣と朝露と、朝の光りを浴びて見渡すカラリとした展望は、此子に取つては何よりの藥だつたのでせう。斯うして二ヶ月位經つと、内氣の子が一日増しに活潑になつて、自分から先に飛起て『今日はお天氣が好いから山へ行きませう』と私を誘ふ樣になりました。其内に頭痛も忘れた樣に治り、物覺えもいくらかよくなつた樣に見えるので、試みに草や木の名を敎へ、翌日尋ねて見ますと、可成澤山の名詞でも少しも淀みなく答へる樣になりました。私共夫婦の喜びはどれ程でしたらう。

これならもう大丈夫とそれから心靜に遲れた敎育に取かゝりました。先づ山へ必要な本や鉛筆やノートを持つて行つて、靜かな見晴しの良い木蔭に陣取り、最初は二十分位靜に敎へて見ました。健康の恢復した所爲もあつたでせうが、

そよ風が渡つたり、小鳥が鳴いたりする木蔭で、智識に渇いた子供は、非常な興味と熱心で、海綿が水を吸ふ樣に、いろ〳〵な事を學んで行きます。それから追追時間を延長し、疲れない程度に學ばせましたが、氣が散らなかつた爲か、非常な勢で進んで、三ヶ月の後には一年級の程度を樂に覺えてしまひました。それから四年經ちました。當時木蔭で本を敎はつて居た弱い子も、今は世間のお子樣達に追ひ付いて、同じ樣に學校に通ひ、四年間藥一服飲まず、健康で無缺席で幸ひ副級長を勤めて居ります。子供の神經衰弱には噪音をさけて、靜かな空氣のい所に置き、度々頭髮を刈つて洗つてやる事が必要です。

三三、玩具の自慢話から　無邪氣なうそ（上）

◇子供は思はず口を滑らした。此矯正の機會を掴んで。

それは二月の或る寒い日の事でした。尋常五年の生徒が十人ばかり、控室の大きな火鉢を圍んで、お晝休みの一時間を、他愛もない雜談に興じて居りました。其内の一人はフト懷から新しい玩具を出して『僕は昨夜この玩具を買つたんだよ、素的だらう』と言つて見せびらかしました。それを聞くと第二の子供は『なんだイそんな物、僕のところにはもつと大きいのがあるぜ』と肩を怒らして、指で圓を作つて見せました。

すると第三の子供は輕蔑した樣に皆んなを抑へて『僕のは其倍もあるんだぜ、そんな小さいんぢや仕樣が無いや』と自慢らしく言ひました。所が其子は平常から自慢をする癖があつて、何んでも針小棒大に言ふので、お友達から嫌はれ者になつて居ました。お友達は薄々嘘らしいといふ事に感付いて、『本當かい幾何で買つたんだ』と誰かゞ問ひつめますと、第三の子はツイ嘘の深みに入つて『一圓さ』

と言つて仕舞ました。第三の子も其玩具を持つては居るが、第一の子供と同じ三十錢のですから、自慢好の子も内心ではビク〳〵して居りました。十人ばかりのお友達は早くも『之はてゝきり嘘に相違ない』と見破つて、一齊にたけり立ちました『そんな大きいのがあるなら見せて貰はうぢやないか、皆んな一緒に行かう』と放課後第三の子の家へゾロ〳〵と押かけて行きました。

第三の子の母親は、其時恰度お仕事をし乍ら愛兒の歸りを待つて居りましたが『只今』といふ聲に立つて行つて見ると、愛兒は蒼い顏をして玄關にションボリ立つて居りました。而して門の外には、多勢のお友達が輕蔑し切つた樣な表情をして、おし重なつて中を覗いて居りました。母親は此不思議な樣子を見て、一體何うした事か、と靜かに問ひますと、第三の子も仕方なしに、自分がツイ嘘を言つた爲に、お友達がついて來たのだと萎れ返つて申しました。

之を聞いて、母親もすつかり當惑して仕舞ひました。併し其儘捨ても置けないので『今日は私が良い樣にしてやるから』と門前のお友達を呼んで『玩具は父が藏ひ込んだので何處にあるか判りませんから、明日學校へ持たしてやりませう』と言つて歸してやりました、而して此機會を利用して、此子の惡い癖を根柢から取り除いてやらうと決心しました。

三四、玩具の自慢話から　無邪氣なうそ（下）

◇寒い町に母子二人。一夜玩具を尋ねてさ迷ふ。

愛兒がフト口をすべらした爲に、母親は其玩具を買つて、愛兒の嘘を償つてやらうと決心しましたが、當時其玩具は、精々三十錢か五十錢位のもので、一圓もするものは、あるか無いかさへ判りませんでした。併し此儘捨てゝ置けば、子供

を本當の嘘つきにして、お友達からも爪彈きされ、行々はどんな事になるか、母親の身に取つては、これ程心配な事はありませんでした。『此機會を利用して、此無邪氣な悪德から子供を救ひ出さなければならぬ』と決心した母親は、嫌がる子供を促して、二月の寒い〳〵街へ、夕方から玩具を買ひに出かけて行つたのです。

先づ最寄りの玩具屋で聞いて見ると『一圓もする品は見た事もない』と心細い事を申します。其次の店にも其次の店にもありませんでした。母親と子供はそれから隣の町へ行きました。其處には漸く七十錢位の品はありましたが、一圓といふのは却々見付かりません。其時はもう夜になつて居ました。寒い〳〵筑波颪は刃の樣に頰を撫でゝ行きました。子供は飢と寒さに泣き出し相な顏をして居りましたが、母親は未だこんな事ではあきらめませんでした。町から町へ、玩具屋から玩具屋へと、尙ほも母子は夢路を辿る樣に獵り乍ら隣の區へ入つて行きました。

もう夜が更けて、大抵の商家は大戸を下す仕度をして居ります。往來はカンカンに凍つて、吹き荒ぶ北風に手も足も棒の樣に硬ばり、身體は雁皮紙の樣にワクワク慄へました。家を出てからもう六時間も歩いて居るのです、小さい子供は到頭泣き出して仕舞ひました。母親の眼にも人知れぬ涙が光つて居りました。併し天の助けか、寒さと飢とに苛なまれて、人心地もなくなつた母子は、隣の賑かな區で、漸く一圓の玩具を見付けたのです。母親も子供も其玩具を買ひ取つた時は寒い往來の闇に立つて、思はず聲を立てゝ泣いて居りました。

而して半病人の樣になつて、十二時頃漸く暖かい家へ歸る事が出來たのです、

――此母と言ふのは私、第三の子といふのは私の長男の事で御座います。其後の事は申す迄もありません、嘘がどんなに悪い事か、そしてそれを償ふ爲に、どんなに骨を折らなければならないかといふ事を、私は染々長男へ申し聞かせました、

それから其玩具は明日學校へ持つて行つて、お友達に見せた後は、子供の戒めの爲に、其卓上に飾つて置き『之は玩具にするのではない、之を見て針小棒大な事を言はぬ樣に反省しなければならぬ』と敎へて置きました。幸ひ長男も此辛い試練に懲りて、其後は眞の正直な子になり、翌年は級長に選ばれて、同級の信望を集めるやうになりました。

三五、ね小便の癖を治すに　臆病から先に

◇乾布摩擦と餅も結構。寢る前に水を飲ませる是非。

私の長男は小學校に通學する時分になつても、寢小便の癖があつて隨分困難致しました。幸ひ病的ではないといふ事が知れましたから、先づ種々と原因を調べまして、第一に毎夜就床前に柔かな布で全身を乾布摩擦し、充分に血液の循環

を促して、體溫を高める方法を實行いたしました。

誰でも冷えて寢ると小用は近いものですが、この子の樣な虛弱な子供は、少し冷えますと、必ず寢小便をし、殊に冬期にひどかつたものです。乾布摩擦は保健上にも有効ですから、毎夜かゝさず行ひますと、見るから溫かさうで、床に入つてから直に熟睡する樣になりました。それから夕方からはなるべく、水を飲せぬ工夫をしました。併し鹽辛い物、菓子等を食べますと、どうしても水を飲ますに居られませんから、晩餐には充分に注意して、餘りに鹽辛い物や、汁等は一切廢し豆類、野菜類等の如き物を選擇して食べさせました。かうしますと、自然と渴きを覺えぬ樣になり、從つて水を飲まぬ樣になつて、寢小便の度數が非常に減じて來ました。又餅は寢小便に効があると聞いて、冬は大抵毎夜與へましたが、之は非常に効果がありました。

而しそれでも時々過ちを致しますから、到底全治は絶望かと思ひましたが、ふと此の子は天性非常に臆病な事に氣が付きました。夜何んかあるときは大聲を出しても慄へ上り、便所等へは一人で行けぬ程でしたから、或は臆病で便所へ行くのがおつくふなゝ爲に過ちをするのではないかと考へ、先づ臆病を矯正して結果を見ようと決心いたしました。それから夜の暗いのは決して恐ろしくないといふ事を、種々と面白い例を引いて話し、それと共に怪談を聞かせたり、化物の繪を見せたりする事を一切嚴禁して、只管恐怖心が薄らぐ工夫をいたしました。

又就床前に便所へ行くのは、今迄は私か妻がついて行きましたが、今度は一人で行かせる樣にしました。さういたしますと、未だ出たくないと云つて却々行きません、種々と考へた末最初は便所のすぐ近くにまで行つてやり、次第に距離を延すやうにして、實行した日は、ノートに○を付けさせ、丸が十五溜ると、何か

好きな物をやる事にしますと、いや〳〵ながらも實行する樣になり、三ケ月程で平氣で夜起きて便所に行く樣になり、寢小便の癖も全く無くなりました。

口註　最近の醫學界に、『寢小便の癖のある人や小用の近い人は、反つて湯水を澤山飲んだ方が宜い』といふ說が行はれて居ります。それは、尿が濃くなつて頻繁に膀胱を刺戟する爲に、自然小用が近くなつたり、寢小便をしたりするのですから湯水は欲しいだけ飲んで、なるべく尿を薄くしなければならぬといふ說であります。二木博士などは專ら此說を主張して居られるやうです。

三六、毎晩日記をつけさして　几帳面な性格を

◇文字を知らぬ内は色わけに。放漫な癖を斯して矯正した。

私共の長女は、今では市内の某高等女學校の敎師を務めて、家政科を擔任して

居りますが、小さい頃は至つて亂暴なお轉婆で、玩具などを貰ても、其の日の中に壞して終ひ、玩具箱などは何時も拋り放しで、寧ろ弟の方が片付け役といふ有樣でした。恁麼風でしたから、體は頗る丈夫で、物覺えなども良い方でしたから、育てるには樂でしたが、何を申すにも女の子の事故、さう亂暴で遣り放しでも困ると思ひまして、種々な矯正法を試みましたが、何れも失敗に終り、依然として他人樣からお坊ちやんのやうなお嬢さんなどゝ云はるゝには困つて居りました。

所が或る外國雜誌に『放慢な子供の性質を矯正するには、毎晩寢る前に日記を認けさせるのが一番良い、未だ文字を知らない中は、天氣を色別で記入させるだけでもよろしい』とあるのを見まして、早速實行にかゝりました。それは長女が六歳の時でした。小學校へも上がらない時でしたから、一冊の綺麗な手帳を與へ

まして、晴天は青、曇天は黑、雨天は赤といふ風に、其日〳〵の天氣模樣を一頁全體を一色で塗潰すやうに致しました。一週間ばかりは種々な繪具を使つて思ふ存分塗るのですから、面白がつて居りましたが、少し監督を怠りますと、何時の間にやら面倒臭がつて、二三日分を一度に塗らうと致します。そこで私も根よく監督をしまして兎に角毎晩缺かさず一冊を塗り盡させました。

一冊が塗り終つた頃には先月の今日は雨であつたとか晴であつたとかゞ一目で分るものですから、自分でも面白いと見えて、何時の間にか言はれない前に、自ら進んで書くやうになりました。其の中に學校へ通ふやうになりますと、此度は片假名で記入したり、晴雨相半する時は半分宛色分けをしたりして、自分で工夫するやうになり、果ては自分で好む手帳を買つて大切にしながら一年中一日も怠る事なく記入するやうになりました。

此の事が自然癖となつたものと見え二十を越した今日でも、一日と雖も日記を認めないと、其の晩は寢られぬと申す程、几帳面になりました。日記をつける癖が付いてからは、幾分整理といふ頭も出來、物を片付ける趣味も出て來ましたやうで、今では不束乍ら女學校の家政科をも擔任するやうになりました。

三七、亡き父と兄の寫眞の前に　母子並んで靜坐

◇用事は軍隊式に復習さして。　粗忽かしやを矯正。

私は昨年夫を喪ひ今は只一人の忘れ片身と寂しい生活を送つて居ます。子供は今年十四歳になりましたが、生れ付き非常に粗忽かしい性質で、用事を命じて使に遣りますと未だ言付の終らぬうちに飛んで行き、用事を三つ頼むと果されるのが二つが關の山でそれも完全で無いと云ふ風でした。學校へ參りましても、半日

の中に二回も忘れ物を取りに歸るのが珍しくありません。私が必要品を取り揃へて鞄の中へ入れてやらなければ、必ず一度は歸ると云ふ風でありました。

こんな有樣ですから學校の成績も悪く、通知簿も丙が多くて乙が珍しい程でした。そこで私は若しや記憶力が鈍いのか或は健忘症にでも罹つて居るのでは無いかと思ひ、學校の先生にお尋ね致しますと、『記憶力は大變良いが、どうも粗忽かしい、その證據に學科でも一問一答で、それからそれと聞いて見ると實に良く覺えて居るが、少し答が長くなつたり或は箇條が多くなると、最う駄目で、問題を間違へたり、見落したりすることが珍しくない、今の中に直さないと將來不幸を見る事であります』との事でした。果して先生の豫言せられた通り、其年商業學校の入學試驗には見事失敗致しました。私は此の機會を逸せず、全力を盡して矯正してやらうと決心し、夫には先づ子供の精神を落着かせなければならぬと考へ

ました。

曾て私は心の鎮静には腹式呼吸が良いと云ふ事を聞いて居りましたが、最初から腹式呼吸をやるのは、子供には無理で長く繼續しないかも知れぬと思ひましたので、最初は單に腹に力を込める様にして静坐することに致しました。時間も初は十分間宛にし漸次多くする様にし、朝は洗面後、夜は就寢前と、一日二回宛佛壇に祀つた亡父亡兄の寫眞の前で、母子二人で無念無想で瞑目端坐致しました。何分今まで静坐したことの無い子供ですから、最初の中は隨分苦し相でしたが、段段慣れるに從つて坐り方も端正になり、從つて精神も鎮静し氣風も落着が出て來る様に思ひました。始めてから半年にもなる今日では大變趣味が出たものと見えて、一人で三十分以上も静坐致します。未だ所期の効果を收める迄には相當の時日を要することゝ思ひますが、御蔭で早起の習慣もつき、下腹がフッツリ太つて

身體が大分丈夫になつた様に思ひます。

静坐の外に更に外的の矯正法として、子供に用事を命ずるにしても、沈着いて充分に聽き取らせ、そして如何に簡單なことでも必ず軍隊の教育の様に復唱させてから出してやり、歸つたならば又同じ事を繰返させました。子供は歸つて又同じ事を複唱しなければならないので、用先へ參りましても、充分落着いて用事を思ひ起します。從つて命じた事が漏れる様な事なく、確實に果される様になりました。今では餘程沈着になり、大人でも記憶し兼ねる程澤山の用事を云ひ付けて手落が無い様になりました。

それに言語が明晰になり、記憶力も増加して一舉兩得の効果があつた様です。今では態度が何となくドッシリして參り、從來の粗忽かしい風は全くなくなりました。それに學科の方も非常に注意力を増して來て、昨年來の成績は先生も驚く

程變つて參りました。

三八、胃弱で持て餘した子に　壯快な朝の散歩

◇父が伴れ立つて實物教育。今は見事な體格に。

私は九年前に妻を失つて以來、其頃四歳であつた男兒を、手しほにかけて育てる事になりました。處が夫れ迄は氣がつきませんでしたが、長男は執拗なる慢性胃弱に罹つてゐる事を知りました。幾日か服藥させれば、一時癒るには癒りますが、時候の變りめとか、又は私の留守中に、子供らしい暴食をした時などは、直に同じ症候に惱まされます。さういふ時には屹度吐いて發熱するのです。それも妙に夜中に斗り起るので、其都度女中を起して始末をさせるのも氣の毒ですから吐かせる、嗽ひをさせる、シーツや毛布を取りかへてやる、水枕をさせると云ふ

やうな事を皆私がしてやりました。

餘り度々其持病が起るので、長男が五歳の時、私は熟々考へさせられました。そして、醫者に計り賴らずに、自分が努力して、立派な身體にしてやらうと決心しました。夫れに就ては、本人の覺悟が最も必要と思ひましたので、小さい乍ら能く理解せしめた上で次の三項を極めました。

（一）飯には茶、汁の類は固より、牛肉の煮汁などもかけて喰はぬ事

（二）間食は午後三時に少量一回の外嚴禁の事

（三）毎早朝（夏分は四時半頃冬分は六時頃）三十分以上散歩を勵行する事、無論食前です

併し之を强ふる斗りでは、指導の本意に背くと思ひましたので、私も共に確守する事にし、鯛茶漬が大好きでしたが、夫も止めました。間食の事は長男も案外に

よく守りました。(私の留守中に、夫れを強要つて、女中を脅威した事が、長い間に數回あつたやうです)

朝の散歩は最も壯快を極めました。其頃高輪に住んでゐましたので、南は東禪寺附近、北は札の辻邊、西は白金二本榎あたりまでの間を、多少の風雨位は厭はずに根氣よく歩行きました。そして散歩の間には、左側を通行すべき事、人道に唾を吐かぬ事、紙片其他を路傍に棄てぬ事、他の通行人、殊に郵便集配人などの妨げになるやうな事は、少しでもしてはならぬ事等、事物に應じて、毎朝一つか二つづゝ、公德を養ふに努めました。夫れから自衞の道卽ち軌道を横ぎる場合、無法な自働車や自轉車などの避け方、前後から車馬にはさまれた時の逃れ方等をも實地に就て敎へました。其後學齡に達した時から、毎朝冷水摩擦をもやらせてゐます。毎晩就寢前に齒を洗ふ事も、其頃から缺かさずやつて居ります。夫れ等も

總て、私が一緒にやつて見せますので、呑み込みも早く、又怠つて中絶するやうな事は決してありません。

烏兎匆々、長男も今は尋常五年生になりました。丈の高い、肉のしまつた、姿勢のよい(胸廓の廣さでは同級生中第一です)最も强健な子になりました。今では少々暴食など致しても、例の持病の起るやうな心配は殆どありません。私は既往七ヶ年の努力に對して、實に滿足な收穫を得たと自信して、此子の前途を祝福して居ります。

三九、褒められ者で過つた　坊ちやん育ち

◇あらゆる躾の注意も今は悔と怨。恐ろしい性の目覺め。

私は今年やつと丁年に達した一介の書生です。私は毎夜一種の期待を以て『躾

け方實驗』を讀んで居ります。そして如何に世の親御達が子女の敎育に御熱心であるかに感泣して居ります、併し私の期待は一度も滿足させられた事はありません。と申すのは親御達が餘りに御熱心な爲、子供の眞の才能や眞の自由を認められて居ない事が多い樣に思はれるのです。私は私の生立ちによつて夫を說明しませう。

私は幼い時からあらゆる注意と愛情とで實に十分に躾げられました。朝夕の挨拶、箸の持方、食事の仕方、其他種々の行儀作法まで解りよく親切に敎へられました。學校の復習はして頂き、入用な物は何でも快く買つて頂きました。私は父母の望み通りに育ち、近隣の人達からは『ほんとうに坊ちやんらしい好い坊ちやんだ』と羨まれ、學校の先生には『出來がよくて穩和しい、好い生徒だ』と褒められました。私は實に缺點の無い模範的な生徒だつたのです。私自身も私の聲

望を傷つけまいと一生懸命で乘氣になつて居ました、私には一點も粗野な所はありませんでした。そして私は中學校へ入りました。

身體が小さい上に坊ちやん育ちで、世間を知らなかつた爲に、實際中學生とは見えない位でした。二年の時途中で逢つた小學校の生徒が『やあ、五年位な子が行かあ』と云ひました。私は其時から悶え始めたのです、年齡の隔りは無くとも世間を知らない私に比べると、同級生は皆兄の樣な者ばかりでした。そして私抔は全然相手にされず始終一人ぼつちでした、自分に親しんでくれるのは親兄弟と自然ばかりだと思ひました。併し其兄弟殊に兄さへ何も知らない私を可成りいぢめました。そこで段々平和な自然にばかり親しむ樣になつて、一人で野外を歩いては植物を採集しました。そして段々夫に興味を持つて來た頃(もう三年でした)は勉學の妨害になると云ふ理由で、親から唯一の慰めの採集をさへ止められたの

です。私は本當につまらないと思ひました、併し止めない譯には行かなかつたのです。

私は次第に怠惰になりました。併し親は夫を多く云はず、唯段々目覺て行く私の性の事ばかりを苦心して居る樣でした。四年になり五年になると同級生は皆もう大人ですが、私は何時迄經つても子供でした。卒業後某高級學校に受驗しましたが、大きな坊ちやんは激しい入學試驗で遂に落ちて仕舞ひました。而して一年ぶら〳〵遊んで居る中に、今まで抑へられて居た性が俄に私の肉體の中に燃えさかる火の樣に目覺めて來たのです。そして私は內證で種々な本を買つて讀み、山へ行つてそれを捨てました。一年間煩悶が續いて居る中に、私の心身は急激に異狀な變化をし、思想も身體も發達して坊ちやんが忽ち年よりもふけて仕舞ひました。次の年も同じ學校を受驗して同じ運命に陷つたので、唯遊ぶよりはと思つて

無理に父に願つて、某會社の會計助手を三ヶ月ばかり勤めました。

世間を知らない私は、挨拶も滿足に出來ないで非常に困りましたが、もつともつと恐ろしい事がありました。私と机を並べて居た若い美しい女事務員が、私を雜作もなく誘惑してもう一息で墮落の底へ達すると云ふ處まで行きました。幸ひ私は氣がついて水面へ浮上り、幾度か溺れようとしては、勇氣を振ひ起し乍ら辛うじて岸へ泳ぎつきました。そして家へ逃げ歸つたのです、唯これ丈の話です。

四〇、愛兒の運命に祟つた　母親の算術嫌ひ

◇學術の好き嫌は僅の事から。　私は斯うして田舍に埋れた。

神童と云はるゝ樣な子供は別として、多くの子供が小學校に入學した時は、その頭の働きに大した違ひはなく、大抵同じくらゐの程度ですが、一年二年と經過

する中に、その成績に多少の差を生じ、得意と不得意の學科が出來、遂にその好き嫌ひが子供の一生の運命を左右する樣な重大な問題となります。然しその分岐點は非常に僅な處で、又最も注意を要する所であります。

私が尋常三年の時、先生が筍を贈ると云ふ作文を作らせました。私はその文中に何處で覺えたか、『御笑納下され度候』と云ふ文句を用ひますと、先生は非常に讃めて下さいました。私は小學校で始めて讃められたので、すつかり優越權を感じ無上の光榮と思つて、又何か讃られ樣と、先生の言はるゝ事に注意する樣になりました。從つて成績も段々良くなり、學校に行くのが面白くなつて、その學年は一日の缺席もなくて精勤賞を戴きました。母にも大層讃められて又今年も又今年もと、遂に中學を出るまで一日も休みませんでした。私の母は歷史や國語に趣味を持つてゐて寢てゐる時や食事の後等の時間を利用して偉人の逸話や國語に

關する教訓的な話やらをして聞かせ、時には和歌や俳句を作つて見せてくれました。

私は十歳の時父を亡ひ、母の手一つで育てられたので、私は母が好きな學科に自然趣味が加はり、何時も此方面では優等な成績を取りました。然し算術は母も不得意であつたのか一寸も話してもくれず、學校の復習も、算術だけはやつて下さいませんでしたので、大きくなるまで時計の見方も知らない程數理的觀念が無く、其方面の學科は總て不成績でした。四年の時は級中で算術の成績は最劣等でした。先生も屢々家庭で練習をさす樣にと注意して下さいましたが、母は一向顧みませんでした。教室でも他の生徒の前で度々叱られたり、勵まされたりしましたが、爾うなると益々嫌になるばかりでした。小學校を終つて中學に進みましたけれども、依然として國漢文作文英語は良成績でしたが、數學は一向振はず、從

つて化學にも物理にも少しも興味が乘りませんでした。どうやら中學を卒業して高等學校の試驗に應じましたが、三回も續けて數學で失敗しました。此くらゐ學科の成績に差が出來ると、到底追付きません、遂に斷念して今は草深い田舍で土の香に親んでゐます。

小學校時代に今少し母が算術に趣味を持つ樣に心掛けてくれたなら、今頃は最高學府に學んで榮ある角帽に前途を囑望されてゐた事でせう。私は遂に出世の登龍門を通過する事も出來ず、徒に草深い田舍に埋もれて終ひました。子供が學科の好きになるも嫌ひになるも、その分岐點は實に僅なところです。私は自分の失敗した徑路を、世の慈愛深き親等に告げて、御參考に供し度いと思ひます。

四一、醫師を知らずに育つた　五人の兄弟

◇畑の隅のハンモックに入れられて。泣くだけ泣かせ乍ら。

私は五人の子供を、生れてから一度もお醫者樣の手にかけずに大きくした。此經驗談を弱いお子供を持つ親樣達のために致さうと思ひます。私は十八の時初めて男の子を生みました。夫の外には舅姑もない私は子供の世話をみた上夫の手助けをせねばならぬのでした。と云つて子守を雇ふ丈の餘裕はなかつたのでした。

晝は野良に出かけて、木蔭にハンモックを吊るし、其中に子供を入れて置きました。家にゐる時は、夏は矢張りハンモックに入れ、冬は「イヅミ」（藁にて拵へたもの）に入れて置いて、泣いても定めた時間の來る迄は決して乳をやらぬやうにいたしました。人樣達は、『あんなに泣かせるのは可憐さうだ』と云ひました。

けれど、夫は『丈夫な子供の泣くのは運動になるのだから餘り心配するな、少しは泣かせる方が却つて可いのだ』と云ひますので、苦し相に泣くのや、悲し相に泣くのでない時は、少しも見ない事にして居りました。そして、泣かせても時間を定めて乳をやりますと、子供は一生懸命に澤山乳を飲みますので、滿腹になるとよく眠るので自然と泣く度が減つて來ました。

左樣して大きくした子供は、大きくなつても他家のお子供のやうに間食を欲しがりませんで、三度の食事の他には何もやらぬ事にしてゐます。現在兄や姉などが子守をしたがりますが、絶對に負せたり、抱かせたりは致させません。泣くまに、やりたいまゝに、餘り干渉しないやうにしてゐます。子供の病氣は概して胃腸を害すのが原因となるのでありませう。運動不足の子供に、泣けば泣く度毎に、夫れ菓子、夫れ乳よと亂食させるために胃腸を害して下痢を起し、夫れがた

め遂には種々の病を起すのでありませう。大人でさへ適當な勞働して、定まつた食事するものは概して健康で、安閑として亂食するものは概して病氣勝ではありませんか。斯うして育てた爲か長男は今年十五歳で、順次五人の子供がありますが、未だ一度もお醫者樣の手を借りた事がありません。

現在他人樣達が、私の子供が餘り健康なので、『子供の泣くのは決して害にはならぬ』と云ふやうになりました。泣せない樣に腹の空く暇の無い樣にそして寒い風にも當てずに育てる子の弱くなるのは當然の事ではありませんか。人手の無い私共では斯うして、自然のまゝに丈夫に子供が育つて行くのです。畑の隅の木蔭に、ハンモックに搖られ乍ら……。

四二、我儘一杯に育てゝ　弱い子を丈夫に

◇雅邦の軸へ墨黑々と樂書。　教育の力で軈て我儘も直つた。

私は三人の子供を持つて居ます、上下が女で眞中が男の子ですが、此子は生來虛弱な質で、何程滋養分を與へても他所のお子樣のやうに丸々と肥らず、四つになつても五つになつても血色が惡いので、林檎の樣な頰をして居る他所の兒を見ると羨ましくてたまりませんでした。

隨分所々の醫者にも見て貰ひ、又相談もして見ましたが、結局之と言つて病氣でないから、努めて屋外運動をさせる事と、室內に光線を多く取入れて空氣を淸淨にし、尙ほ食物に注意せよとの事でした。私は此注意を氣長に實行しましたが何うも發育振りが、私には滿足出來ません、そこで私は此兒に能ふ限りの自由と

滿足とを與へ、何んな事でも思ふ存分にさして、病氣でない限りは無暗に藥だの卵だの肉だのを與へない事にしました。

以來は母親にも女中にも堅く云ひ付けて、此兒の云ふ事は何んでも聞いてやれ斷じて抗つてはならぬと嚴命を下し、一家中擧つて此方針を實行して行く事にしました。所が其頃は僅に五つでしたが、母親は隨分持て餘しましたが『何どれ程費用が入る物か』と云て、暫く全く自由にさして置ました。六つの春頃からは隨分忍び難い惡戲をするやうになり、又要求も少し大きくなつて來たのです。三輪自轉車が欲しい、空氣銃を買へ、蓄音機を買へ、『よし』『よし』で悉く買ひ與へましたが、或る夜時價八百圓もする雅邦の軸に、墨をベタ〳〵と塗られた時許りは、流石に私もハッと思ひました。併しチットこらへて遂に一言の叱言も云ひませんでした。母親は『何程體が大事でも此麼育て方をして將來何うする積りです』

とこぼしましたが、『マア宜いサ體が丈夫で育てば後は教育の力で直る』と云つて如何なる事があつても壓迫を加へぬ事として、小學校に入學する八歳の春迄實行して見ました。

所が六歳で三貫六百目の體量が此時は五貫八百目になり、入學以來半歳ならずして今まで王子の如く威張り返つて居た子が、打つて變つて相當に分けが分かる樣になり、近頃は餘り無鐵砲な要求や悪戯はしなくなつて來ました。そして體の發育や血色もめつきり好くなり、元の弱々しい面影は全く見られません。一時は體育に偏重して、手におへぬ我儘者を作る樣に思はれましたが、私が豫期した通り教育の力でそれも杞憂に終り、今では丈夫な溫和な、そして意志の強い子になる事が出來ました。

四三、弟に和歌を教へて　冷い心を優しく

◇淀川の鯉の譬から思ひ付いて。　驕慢、冷酷から救つた經驗。

私には今、府立の某中學校へ行つて居る十六になる弟が有ります。小さい時は御話にならない程心がひねくれて居て、驕慢で、慾張りで、剛情で、女中などを思ひ遣りもなく使ふ癖が有りました。活動寫眞等を見ても、子供心に感激する事はなく、役者のあらばかりを探して面白がつてゐるといふ風でした。

子供の觀察力の強いのは結構ですが、夫れが嵩じて物の闇黒面ばかりを見る樣になつては、無邪氣な子供の可愛らしさは無くなつて仕舞ひます。例へば母や私に小言などを云はれると、わざと物音をさして、私等にものを云はせまいとするのです。それに非常に無精で、朝曇つてゐるから傘を持つて學校へ行け、と云

つても聽かず、雨が降つたら歸りに女中に持てこいと云つて出かけます。若し女中が持つて行かなかつたりすると、歸つてきて、何時迄も〳〵ふくれて居りました。で私も、(其の頃私は中學の四年生でした)何うかして弟の心をもつと柔かい善い方へ導いてやりたいと思つて、いろ〳〵考へた末次の方法を採りました。

花月草紙に『昔淀川で漁師が鯉を獲るのに、初は鯉と同じ方向に一しよに泳いでゐて鯉が安心して心を許した時俄に獲へる』といふ話が載つてゐます。この趣意を採つて母にも相談して許可を得、弟のやりさうな行ひをどし〳〵弟の前でやつてやり、又弟と一しよに惡い事なぞもしました。そして靜かに『今僕等のした事は惡い事ぢやあないか、あんな事は子としての道に違つてゐるとは考へないか』と聞きました。そんな風でその時は大抵直ぐ惡い事だと氣付く樣でした。そんな時、その外には何も云はず、本人が心靜に自省する樣に仕向けてやりま

した。

此方法を繰返して居る内に本人も惡い行ひを悟つて段々直つて參りました。で次に率直な溫かい情を持たせるため、毎晩和歌を作らせて見ました。初めは嫌がりましたが、面白い道歌等をきかせて、歌に對する興味を持たせ、それから夜、机に向ふ時雪とか花とか題を出して作らせますと、道歌をきかせた故か、哀れな子供達を詠みこんで優しい感情を子供らしく歌ふのでした。これは非常に有効だつたと見えて、次第に心も溫かになり行ひも優しくなつて、やがて女中などもいたはり、丁寧に物をいふ樣になりました。小學校を卒業する時分は相當心に落ち付さへも見せ、その爲か二番の成績で卒業する事が出來ました、現に今中學で組長をやつて居ります。

私は此經驗から幼い者でも『押しかぶせて物を敎るより善惡の判別力を養つて

自然に良心を喚びさまさせる樣』につとめる方が、遙に有効であるといふ事を悟りました。斯うして私は幸に一人の弟を救ひ得ました。

四四、口で呼吸する癖を矯めて　臆病から活潑に

◇朝は愛宕山に登つて深呼吸。　晩餐後三十分間は靜坐を。

私の長男は非常に臆病者で、一寸したことにもメソ〳〵泣き外出嫌ひで家の中にばかり居りました。たまに外に出ても歸つて來る時は屹度泣いて歸るのが常でした。小學校に通ふやうになつても矢張り內氣な臆病者で血色が惡く、外出嫌ひの讀書好きで、成績はようございましたが、健康が勝れず、一寸した事にも風を引くとか腹痛がするとか、三年生に進んだ頃から、次第に學校の方も缺席勝ちになりました。

私は何か病氣をしてゐるのではないかと二三日子供の擧動に注意をしましたが只發見したのは子供が口でばかり呼吸する事だけでした。親として今迄氣の付かなかつたのは迂濶な事乍らも早速醫師に診せますと、矢張り病氣はないが、只子供には似合はず神經が過敏だから、運動不足の爲ではないかと云ふ事でした。そこで私は、初めから過激な運動をさせては却つて惡いと考へまして、幸愛宕山の近くに住んで居りますので、毎朝七時に子を連れて愛宕山に登り朝の冷たい空氣を深く呼吸させ、高い場所から市中を瞰下ろさして、浩然の氣を養はせる樣にしました。それから夜は晩餐後二十分を經て、三十分間づゝ靜坐をさして、成るべく鼻で呼吸する事を奬勵しました。靜坐が濟むと勉强するなり遊ぶなり自由にして、九時には必ず就寢ませる事に努めました。

初めのうちは朝の散步が七時と決めてあるのに兎角遲れ勝ちで、又夜の靜坐も

三十分と定めてあるのに、足が痛いと云つて二十分位で止め、鼻で呼吸する様に注意しても、苦しいと云つては直きに口で呼吸をし却々思ふ様に行きませんでした。併し不規則勝乍ら勵まして、二ヶ月ばかり實行しましたが、子供の顏の血色も段々よくなり、男の子らしい動作を見る様になつて來ました。子供の血色のよくなつたばかりでなく、私自身も毎朝毎晩一緒に散歩や靜坐をした爲に、自分でも氣分のよくなつたのに氣が付く程でしたから、子供が晴々しい、愉快な氣分になつて行く事は否定が出來ないのです。之に力を得て少しく强制的に規則正しく實行させる樣に努めますと、効果が段々顯れて、氣分もよく元氣も出て興味も湧いて來たので、四ヶ月目には、もう私などに催促されずに、自分からキチンキチンと履行する樣になりました。

恰度六ヶ月目頃には家業の都合の悪い時には私は散歩を怠る樣になりましたが

子供は朝の散歩を堪らなく嬉しがつて、私達の起きぬ前に家を出て行く程になりました。そしてもうその頃は口で呼吸する悪癖などは見出されなくなり、非常に食慾が進んで腹痛などは夢の樣に忘れて仕舞ひました。そればかりではなく少年らしい腕白性も發揮され、外に出て遊んでも泣いて來る樣なことは斷じて無くなりました。

四五、赤ん坊のうちから　獨り寢の習慣

◇衛生にもよし手數も省け。子供の獨立心を養成する。

子供を大人が懷いてねると衛生上善くないといふ事を或る書物で見ましたので私の子供は幼少の時から、何んとかして獨りで寢かせたいと思つてゐました。そこで私は本年五歲になる女の子が生れた時、此子こそは獨りで寢かして見ようと

決心しました。

最初寢る時だけ添乳をしてやりますと、子供は滿腹すると、ぽつと口から乳を放しましてスヤ〳〵と寢込みます。此時私は徐つと子供の寢間を出て他の床に入りまします。寒い時には湯たんぽを入れ、暑い時には夜間常に注意して、お腹の冷ないやうにしてやります、をり〳〵目を醒して乳をねだりますから、其時また起て行つて乳をやります。赤子の時から斯うした習慣をつけますと、子供を獨りで寢かすのも決して困難ではありません。とう〳〵それが習慣になつて少し物心付く樣になれば、夜は押入れの戸口に行つて、ねんね〳〵と、蒲團の出るのを喜ぶやうに成り、蒲團を敷いてやりますと獨りで寢轉んで喜んで居ります。其中に乳をやりますと、スヤ〳〵と氣分よくねてしまひます。

それが今は良習慣と成りまして、却つて添寢をして貰ふのを嫌がるやうに成り

ました。子供は非常に健康でありまして、生れてから唯一度灌腸をしてもらつただけであります。少し大きくなると獨りでねてゐる側で、唱歌を歌つたり、昔話などをしてやりますと、喜んで聞き乍ら安らかな眠に入ります。決して添寢を要求したり、母を呼び寄せたりするやうなことはありません。

次の女の子は本年一歳と二ケ月ですが、此子も姉の通り獨り寢の習慣をつけました。晝でも夜でも、自分が眠くなりますと枕を抱いてねんね〳〵と申します。早速に蒲團を敷いてやりますと、獨りで寢轉んでしまひます。此子供が眠くなると、グウトねんね〳〵と片言交りに申しまして、押入の戸を叩いたり、獨りで機嫌よく寢込みますのを見ると、本當に天眞爛漫で世話が燒けないばかりでなく、精神上にも良い感化を與へられる事が判ります。それに此子も非常に丈夫で、一度も醫者に診察して貰つたことはありません。何時も他所の奥樣が御出に成ると

嬢ちやんは誰とお休みに成りますか、母様と、父様と、など申されますが、私の子供は獨りでねんねと申しますので、眞實ですかと驚いてお出になりました。

蒲團は親子別々に致しましても、寢る場所は成るべく兩親の手近い所にして、寒暖に應じて子供の蒲團の工合などを見てやります。子供の獨り寢は衞生や手數の問題ばかりでなく、子供の氣分を緊張させ、獨立心も養ふ事が出來ると信じて居ります。

四六、親に別れた幼い姉妹が　老祖母の手助け

◇いたいけ盛を炊事や掃除まで。　胃の弱い兒は節食療法に限る。

私の家には今年八歳と六歳との女の兒許り二人の孫があります。此の小さい方の孫が三歳の時母親に死に別れましたので、遂に二人は私が引受けねばならぬ事

となりました。併し私も息子も勤の身でありますから、迚も充分の世話も出來ません、妹の方を田舍の伯父に託して姉は私の勤先へ連れて參り、其所で一日を託して置いて、歸る時連れて歸つて居ました。

二ケ月程過ぎますと、伯父の處で子供が病氣に罹り、始めは嘔吐下痢をしましたから、醫師の診斷を受けますと、急性胃加答兒との事で、伯父も心配して連れて參りました（何分此の夫婦はまだ一度も子供を持つた事が無い者ですから、子供の養育には經驗がないので、子供の暴食に任せて居たものと見えます）歸つて來た子供は實に衰弱して居りました、目は落込み身體は骨と皮許りになつて、少しでも食事を頂きますと、お腹はボン〳〵に張り、そのお腹を動かしますと、ドブン〳〵云つて居ます。直樣診察を受けますと、之れは胃擴張を起して居るから先づ全治迄には半年位掛るとの事、迚も私の家では半年など醫者に掛ける事も出

來ず、私は種々心配しましたが、子供の生命には換られぬと思ひましたから、決然職を辭して、看護に身を委ねました。

先づ藥は一切止めまして、節食療法を採り、一日牛乳朝夕五勺宛晝食は粥汁一椀、午前午後の間食にビスケット三個宛を與へて、十日許り經過を見ますと、餘程胃も收縮して來ましたから、追々に粥を與へ、續いて軟食を與へますと、一個月の後には元の通りの丈夫な身體になつて丸々と肥り、只今では風邪一つ引きません。一度胃擴張を起した子供には、餘り過食は宜くありませんから、私の家では其の後三椀として居ります。子供のお腹は八分の方が宜しいやうに思ひます。

それから私は此の際二人の子供に、出來得る限り家事の手傳をさせる事にしました。先づ使ひ歩きから掃き掃除、水汲み床の上げ下し、臺所の洗ひ物一切を姉の方にさせましたが、昨年四月から學齢に達して入學する事になりましたので、只

今では姉の學校に參つて居りますうちは、使ひ歩きも三度の食事のお茶椀も、皆六歳になる妹が洗ひます。姉の方は毎日學校へ行く前に先づ表の雨戸を四枚共脱して、窓の下に横に戸を納める處が出來て居るから、其處へ納め、それから内を片付けて掃き出し、續いて玄關と表とを掃いてお膳立をして自分の食事を濟して學校へ參ります。歸ると直に『何かお使ひはありませんか』と尋ねまして『無い』と申しますと學校のお復習をして、夫れから少し遊び、四時には屹度歸つて又お掃除をします。私は實に可哀さうだと思ひますが、併し又一方から考へますと母親が無いのだから、今から此の位な事はさせて置かないと、將來悔ゆる事があるからと思ひ返して居ます。

昨年の夏も一昨年の夏も、風呂の水も汲んで入れさせました。子供の方では、私が年をとつて居ります故、溫かい心で勤んで居ります。先達も私が用達に參り

まして、五時頃歸つて見ますと、姉妹で着物を端折り、玄關先から表から雜巾を掛けて居ります。それを見た私は『もうお廢し』と申しますと『祖母樣のお不在の間は綺麗に掃除をしてお留守番をして居ようと思つて』と申します。知らない方は繼子でゞもあるのかとお考へになる人もあります。私は『お前達がよく働けばお母樣が歸つて參ります』と申しますと『お母樣に歸つて貰ひたいから働く』と申します。實に親無は可哀さうだと思ひます。

註　お粥の汁は白米よりも玄米の方が宜しく、麥の粥の汁も滋養分に富んで居ります。

四七、優等生に躾けられて　病弱な身體に

◇自由に遊ぶ事を封じられた。　品行方正學術優等の罪。

私は姉二人の次に長男として生れました。女の子を二人まで育てた父母は、男の子の私をも、成べくおとなしくしくと育てたのでした。お友達は學校から歸つて、本を擲り出して、歌つたり驅けたり自由の天地に伸々と遊んで居る時、私はうす暗い三疊に姉達と机を並べ復習をさせられました。

姉は女ですけれども私は男です、何して姉達の樣にじつとして居られませう。父母の見えない時は包を擲り出して外へ飛び出しました。夕方遊び疲れて歸る私の着物の泥を見つけて、父母はお前のやうな腕白者は世界中にない。大人になつて何になる心算だ、姉さんを見ろ、着物ばかり汚して』等と私が男の子であつた事を忘れて叱るのでした。そして、晩まで女の子の樣に家に引込んで本を見て居た時は、兩親は私を非常に褒めて菓子等を呉れるのでした。私はお菓子欲しさと叱られる恐ろしさとで、自分の樂しい遊びを節制して、毎日大部分の時間を、机

によりかゝつて本を開かなければなりませんでした。萬病の源とも云ふべき執拗な胃病は、父母の手によりて私に植付けられました。お蔭で私は品行方正、學術優等の、顏の青白い、四肢のヒョロ〳〵した頭ばかり大きい模範生になりました。近所の人々は、『あなたの所の坊ちやんはおとなしくて、よくお出來になるさうで』などゝ賞めました。父母が又これが非常の得意でした。そして益々通信簿に甲の多くなる樣に復習を勵ましたが、甲の數の多くなる反比例に、私の身體はだんだん青白くなつて行きました。父は私の小學五年の時に、ある事情で、私等と別居しました。母は父があの樣だから子供までと言はれる口惜さに前よりも一層、遊びを束縛して復習を强ひました。私は中學へも入れて戴けず、高等小學を卒へて十八の年に上京し、晝は遞信省に勤め夜は神田の電氣學校へ入學致しました。國元からの母の手紙には、父の樣になつて笑はれるなと必ず書いてありました。

私は健康の事などを考へる暇もなく毎晩一時頃迄も勉强致しました。そして、二年後目出度く卒業し、それから某英語學校へ入りましたが、この時私の身體は過度の勉强と、睡眠不足の爲に、普通ではありませんでした。大學病院で診察して戴いた結果は、聞くも恐しい胸の病と分つたのです。

私は血の氣の失せた身體で國へ歸つたのは昨年の六月でした、それから六ヶ月間を病床に暮し、一時は危篤でしたが、神のお蔭か、漸く散歩も出來る樣になりました。

お子樣をお持ちになる親々方で、學術優等やおとなしいのを得意になつて、復習ばかりを强ひる方はないでせうか。私は本年適齡ですが自分の枯木の樣な身體を思ふとき、父母の躾け方を恨まずには居られません。

四八、少し許りの注意で矯めた　氣の散る癖

◇眼觸りの物を一切取り除けて。　劣等から優等になつた復習法。

私は五人の子の母親で御座います。上から四人は、毎學年良い成績を取り、人樣からも羨まれて居りますが、五番目の子は何うしたものか出來が惡く、漸く進級はいたしますが、成績はいつも劣等でございました、私も大變心配をして、一生懸命復習もさせましたが、何時迄經つても其成績があがりません。

そこで、生れつき頭の働きが惡いのか、注意力が足りないのか、其子に就てい〳〵研究をして見ましたが、年齢相應の頭の働きもあり、さう大した馬鹿氣た答もいたしませんので、あまりの不思議さに、受持の先生にも伺つて見ました。先生は『お子さんは決して頭の悪い方ではありません、たゞ注意が足りないだけ

です』と云はれるのです。それから復習の時、よく注意して見ますと、本を讀み乍ら其頁の角を折つたり卷いたり、片時も手を休めず、算術をさせると考へ乍ら室の中を見廻し、傍にある玩具を持つて見たり、無暗に鉛筆の心を氣にして、先を針の樣に削つたり、一向注意を集注しない事を發見しました。私は此樣子を篤と見て、初めて此子の成績の悪かつた原因を覺りました。

そこで先づ注意を集注する事を敎へなければ、此の子は何をさしても駄目だと信じ、それから復習の時は、机の附近の玩具を片付け、眼の屆く限り、目觸りになる物を一切置かない樣にし、鉛筆は二三本心を尖らせて揃へ、何も彼も一切用意が整つてから、初めて机に向はせました。併しこれだけでは未だ充分とは云へないと思ひました、机の前で目を閉ぢて二三回深呼吸をさせ、十分氣を落着かしてから、愈々勉强に取りかゝらせました。四方に氣を散らさず一心不亂に勉强す

る事は最初は非常に苦痛の樣でした。併し馴れるに從つて落着が出來今まで一時間も二時間もかゝつた復習が、三十分足らずでミッシリ出來る樣になりました。而して段々注意力も付き、勉强中は決して他の事に氣を取られるやうな事が無くなりました。其爲か學校の成績も次第に良くなり、當人も之に勵まされて進んで勉强をしますので、間もなく可なりの成績になる事が出來ました。

こんな些細な注意で、劣等な成績を優等にする事が出來ましたのですから、もう少し早く氣がつけばよかつたと、今更ら申して居る有樣で御座います。

四九、秩父連山の麓に　スパルタ學校

◇裸體操に輕裝に草刈に鐘撞に。　缺席と流感が皆無になるまで。

私の鄕里は秩父連山に續く、明覺といふ一小村です。私が小學校へ通學する當

時、校長外數氏によつて定められた校則は、所謂スパルタ風の頗る嚴格峻烈を極めたものでした。私の小學校では他校の樣に小使をおきません、從つて先生や生徒は自分で自分の用事を辨じ、掃除から使ひまでも自分でしなければならなかつたのです。それから體操の時間には、敎師生徒皆猿股一つの裸になつて敎練をするのです。此の企てに對しては、最初女生徒などの父兄側から風俗上種々反對もありましたが、生徒の體育を思ふ敎師の愛情と熱心に動かされてさすがの父兄連も遂には此の企てに盡力する樣になりました。

爾來鐵をも鎔かす樣な三伏の炎天も朔風身を切る樣な冬の日も休まず、數年間一日の如く日光浴を實行して來ました。又常に輕裝を奬勵し『輕裝』の札を玄關に揭げて、日々溫度及び種々調査事項を其の下へ記し『尋三以上』『尋五以上』『高等科』と着物の標準を揭げて實行して來ました。私等の卒業する頃には、全生徒

悉く輕裝の習慣がついて、右の札は全く不用物となつて仕舞ひました。又運動場に出る時は下駄を禁じ、最も運動に適する足袋跣となり、尋一二年以外の男生には、室内の外は羽織着用を禁じました。そして熱心な生徒には毎月努力賞を、競技の進歩著しき生徒には優賞狀を與へ怠慢なる生徒を戒むると共に、益々生徒の元氣を鼓舞しました。

又全生徒を東西二組に分ち、リレイ、角力、綱引の三種の競技を奬勵して月一回又二回優勝旗の爭奪戰をして居ります。其の士氣の旺盛猛烈なる事は斷じて他に見られない事と信じて居ります。又校内には鐘樓を設け尋常五年以上の男生三名づゝを一組として鐘撞當番とし、毎日未明より登校して、夏は四時冬は五時半といふに曉の闇を破つて勇ましく鐘を撞き出し、當村九ヶ鄕を初め、近村までも早起を奬勵して居ります。又農業科を盛んにし實習地を廣く取り、夏は毎週

二回高男生は校長初め諸師引率の下に未明より學校へ草刈に行つて肥料を造り、私等の卒業後尙今日でも繼續して居ります。朝は未明より新鮮なる空氣を吸ひ晝は寒風に梳られ、烈日に焦かれ、かくて後豫想通り生徒の健康は頓に增進し、病氣缺席は著しく少くなりました。一昨年來惡性感冒流行の際も、殆ど冒さる者なく年々良好なる出席記錄を作つて居ります。近頃は更にマラソンと擊劍を盛に奬勵し、學童の健康法を日々研究して居ります。

愛讀者諸君、私はかうした面白い學校に育てられた青年であります。其の爲か今も非常に丈夫で、種々の艱難にも打勝つ事が出來、又少し位の忍耐も出來得る樣になりました。

五〇、悪たれ村童を　善導した話

◇巧にマラソン熱を利用して。　獨身者の私が餓鬼大將で。

私の村は全く世間とはかけ離れた不便な一孤村であります、從つて各親達も子供の躾方等に注意する者と云つては殆んど無く、朝起きるとから野山に出て激しい勞働を之れ事として居ると云ふ風なので、子供等は、宛然野獸の如くです。偶々通行人でもあれば悪たれを吐く位はまだしも、時には石塊や棒切れを以て暴行をさへ加へ、又野良を馳け廻つては終日家へも歸らず、野山ではやたら火を焚いたりして亂暴は仕放題、從つて學校でも喧嘩はする、敎師の云ふ事は聞かず、又白墨を盗んで來ては到る處無暗に落書をする等、それは全く手にも何にも負へないのでした。

處が或る秋隣村にマラソン競走がありましたので、私は獨身者の氣まぐれに子供達の親々に話し子供を連れて見物に行きました。それが非常に子供の興味を惹いたと見えて、夫以來は學校の行き歸りに競走すると云ふ程になりました。其時不圖私は其熱を利用して子供等の悪たれを矯正して見ようと思つたのでした。幸ひ當時私には月に三度の休みがありましたので、其日學校放課後の子供を自宅に集め、豫め景品などを整へて、自ら餓鬼大將となり、最初はマラソンの眞似事などをして、唯終日面白く遊ぶやうにして居りましたが、しまひには自分の休みと云ふと通知せずとも、子供等は遊びに來るやうになりました。そこで私は子供等の遊びに倦きた時分を見計らひ試みに紙を與へて畫をかゝせ、乃至清書をさせて見ますと、案外に從順に而も可なり興味を持つて良く書きますので、色々工夫しては怠らず夫れを奬勵して居たのです。

斯して月日の經つに從つて子供等は皆よく私を親のやうに思ひ、何でもよく云ふ事を聞くやうになりましたので、其後私の發案で道德箱と云ふのを作り、道端の危險物などを拾つて之に入れさせ、それが溜ると屠屋に賣つて其お金で色々面白い本など買つて讀ませましたが、一時は一回に三圓餘りにもなりました。

爾來子供達は親の手助けは勿論、往來で荷馬車のつかへた時などは協力して助けてやり、友達同志はお互に仲よくして睦ましく學校に行く等、昔の惡たれな面影は全くなくなつて、今では數こそ僅かですが、立派な一少年團となりました。つい先頃校長が態々私方を訪れて、厚く御禮を云はれた時には、思はず嬉し涙がこぼれたのでした。

五一、身體から鍛へ直して　飽き易いのを矯正

◇運動の時は親が出かけて聲援。部屋一杯に玩具を並べて訓戒。

私の長男は小さい時分には內氣で物事に飽き易く、三度の御飯は變つた物でなければ食はず、少しでも機嫌がわるいと、直箸を放り出して膨れると云ふ風でした。此癖が年と共に段々增長して學校に行く樣に成つてからも、絕えず趣味が變るのでありました。

ハーモニカを買つてやれば、一ケ月も經たぬ中に飽きて、ヴアイオリンを强請る。之を買つてやつた當初は五月蠅い程鳴らして居ますが直嫌になつて、それから繪畫に熱中し、折角道具を澤山買つてやると、もうフツ、リ止めてしまつて、今度は寫眞機械、次は何と云ふ風に實に驚く程飽き性でありました。元來此の飽

き性は一事を遂行すると云ふ忍耐力を缺いて居るのでありまして、神經質の虚弱な子供に多く見る例であります。

それで此の癖を直すには先づ身體を鍛へるのが捷徑であると考へましたので、私は先づ子供に運動を奬勵致しました、運動も趣味のないものは決して繼續しませんから、現時最も流行して居る野球とマラソンをやらせました。そして私は奬勵の一助として、野球の試合や運動會のある時には忙はしい店を妻に任せて、子供の應援に參りました。子供が勇ましく奮鬪して月桂冠を得れば、私はあらゆる賞讃を與へてやつたのです。斯うして運動嫌ひな子供も日を經るに從つて趣味を覺えて參りました。次に私は忍耐と持久の習慣を養ふ爲に、毎朝冷水摩擦をやらせました。私は之を健康增進の外、更に膽力養成の目的で、丹田にウント力を込めさせ、下腹部をしつかり摩擦させました。それから半年も經ちますと、子供の

蒼白い顏はいつしか赭黑くなつて、健康も著しく增進し、何處となく男々しい風が見えて參りました。それから愈々惡癖の直接矯正に取りかゝりました。

或日の事でした、今迄子供に買つて與へた樂器玩具等を悉く一室に列べました。そして其夜皆の寢靜まつた頃、子供を起してその室に招き懇々と將來を說諭致しました（夜を選んだのは心の沈靜をはかるのと、一つは兄を誡めるに何時も弟達に聞こえぬ樣にして居た爲です）、夜は森閑と更けて、室の中には一杯に玩具が列べてありました。流石子供心にも、つく〴〵今までの惡い癖を悟つたものと見えまして、それから以後は此誓に從ひ、玩具一つ丈けを取らして、其他は悉く私が預かることに致しました。そして其の一つの事に付て充分努力させ、必ず或る結果を見る迄遂行させました。最初の中はやつぱり飽が來ましたが、飽きても強ひて行はせる樣にして心を練らせました。

すると其中に段々と技術が上達して來るので子供はそれに趣味を持て來ます。又私は其都度奬勵の褒め言葉をかけてやりました。斯うして一つ事が愈々或る程度に達しますと初めて次の事に移らせました。子供は運動と營養とで既に神經質も治り、身體も丈夫になつて居るので物事を遂行する力は充分持て居りました。其の上斯うした私の督勵で漸次癖も直り、それから一年も經つとさすがの飽き性もスツカリ直つて了ひました。

五二、或種の運動で入學さした　妹が落第する迄

◇無理に不相應な學校に入れて。　快活な兒が忽ち憂鬱になつた。

女學校の入學試驗が大分問題になりましたが、實際親の虚榮心の爲め、或る種の運動をして頭腦のあまり明晰でない子供を、有數な良い學校へ入學させるのは

子供の爲めにならず、却つて永久の失敗を招く基となります。私の妹も是れが爲め取り返しの付かぬ失敗をしました。

元來私の妹は雲雀の樣に快活で、人に明るい感じを起させる子供でしたが、自由に育てゝ小學校に入學しても別に勉强は强ませんでした。夫でも中位の成績はとつてゐた樣です、小學校を卒業していざ女學校の入學試驗を受けさせようとしましたが、實力が備はつてないので實に困りました。基礎の薄弱な子供は勉强すればする程自分の無能が分つて、試驗を受ける前に自己を見捨てる樣になるのです。平素から訓練されてない妹は、實際初步的智識に缺けてゐた爲め、いくら敎へても分りませんでした、丸暗記より外に仕方がないのです。それでもどうかかうか試驗を受けて見る氣になつたので都下で有名な某女學校の入學試驗に應じさせる事にしましたが、到底自分でも入れないと自覺してゐましたし、私

も又駄目だらうと思つたので、内々兄の知人關係を辿つて、某教師に或る運動をやつて、入學試驗に應せしめました。もとより實力がないのですから、成績は餘りよくなかつた樣です。殊に數學が悪かつた樣でしたが、或る運動が見事其効を奏して、兎も角も入學は出來ました。

其時は妹も大喜びでしたし又家族も他人の賞讃の辭に有頂天になつて、親戚に吹聽しては喜んでゐました。併し其結果は、一學期末の成績表にもう現はれました。暗記物は自分でも努力した結果、格別悪いのはありませんでしたが、數學が非常に悪いのです。數學抔は基礎が充分出來てゐないので、四則の基本計算から思はしく行かない始末で、教授を受けてゐる間も興味は起らず幾分詰込主義の學校ですから猶更分らないのださうです。二學期の末も同じく、三學期末はどうやりくりしたのか、まあ及第は出來ました。然し二年になり三年になると數理的

な頭腦を要する學科が益々殖て來る、成績は益々悪くなるといふので幾分外聞が悪いから、家庭では勉强を强ひるやうになりました。自分は勉强してゐるのに人から尙ほ强制される、然し成績は擧らない及第さへも危いといふので益々氣をもむ、學校に於てもいぢらしい程氣を使ふ、其の結果快活で從順な子供は、憂鬱性の妙にひねくれた子供になりました。そして非常な勉强も無駄になつて、三年には到頭落第させられて仕舞つたのです。

妹は毎日々々泣いてばかりゐました。友達が訪問しても、顏もあはさずに玄關拂ひをするのです、以前の友達を連れて來て、家中跳ね廻る快活さは何處にも見られませんでした。學校へは決して行かない、外には一歩も出ないと言ふ有樣なので、終に横濱の某女學校に轉校させて、叔母の家から通學させる事にしました。私は父兄に對して、子供の實力を養成せられる樣、小學校時代から勉强好

きにする樣仕向けられる樣に望みます。すべてが實力です。實力のない子供を或る運動に依つて優秀な學校に入れ、優秀な生徒と競爭させるのは子供を不幸に陷らせるばかりです。

五三、僞の結婚が生んだ　子供の暗い運命

◇愛なき父母の躾に虐げられて。　膝下に芽ぐんだ陰氣な性格。

私は某私立學校を卒業し或る會社に勤めて居る薄給の一青年です。私の此の世に生れて來たのは親の本意ではありませんでした、最初母が此の家に嫁いで來たのは、止むに止まれぬ事情の爲め心ならずも一時假りに參つたのださうです。されば機會さへあれば去らうとして居つた處へ、私と云ふものが生れたので、生れ乍らにして私は母親の邪魔物になり厄介視せられる境遇に置かれたのです。

それに父も亦元來氣短な性質で、面倒臭い子供の世話などは大嫌の方でしたから、私は人並に親の愛情にも浴する事が出來ず、僅に召使ひ任せにされて育てられたのです、偶々私の本能が母の愛に渴いて「御母さま」と傍へ行かうとすると「五月繩い何用があるのだ」と睨みつけられ、何々して頂戴と云へば、其な物が何になるとにべもなく刎ねられます。重ねて乞へば未だ聞分けないかと打たれました。幼少時代の心は損はれ易いものです、斯くして私は、親の慕はしさよりも、怖さを頭に刻みつけられまして、而して年と共に漸くいぢけた陰氣な性質となつて行きました。十一歳の時親達は事業の爲め東京へ移り、私は知合の家に預けて置かれました。

小學校で修身の時間に親の慈愛と云ふ事をしみ〴〵敎へられ、更に他の友達が皆親の膝下に居て惠みに浴して居るのを見る毎に、自分の身に引き較べて不思議

に思ふことばかりでした。父母の上京後、間もなく弟が生れましたが、此の頃になつて、母の心も變り、且年もとつたので漸く親の眞の情を以て弟を育てる樣になりました。其後親戚に迫られて私が十三の冬に親達は不承々々に東京に引取りました。數年間の別離は更に双方の情愛に冷淡を加へ、私も父母に少しも懷く事が出來ず、以前にも増して酷烈な待遇を受ける樣になりました。親に懷かぬ私が無理でせうか、膝下から遠ざけた親が無理でせうか。旨い食物があつても幼い者を勞らねばならぬと云ふ口實の下に、弟にばかり與へられて、私には少しも分けて呉れませんでした。時には私の持つて居るものでも弟が欲しいと云へば容赦もなく取上げて弟に與へて仕舞ひます。假りにも弟と口爭ひでもしようものなら、幼い者をいぢめる奴があるかと、鐵拳の亂打を受けました「僕は繼子でないかしら」或る時あまりの事に、斯う口走つたのが父母に耳に入り、「こ

んな邪推たの深い奴は無い、末恐ろしい根性だ」と二日間禁食の刑に處せられた事もあります。

暮せば暮す程かゝる待遇を増すばかりで、子供心にも世の中に面白いと思ふ事もなくなり、一層一思ひに死んで仕舞ひ度い、と思つた事も一二度ではありませんでした。併し意氣地のなき私に自殺の決心も出來ず、唯其の日其の日を味氣なくて送つて來たのです。さうして私は、唯今極めて陰鬱な面白味のない人間となり、他人からは變人と呼ばれて居ます。其後父母も寄る年波に元氣も衰へ何時か私に對する憎惡の念も薄らいで、今日では昔の事を詫る有樣なので、恨む心は毛頭なくなりましたが、唯眞に子を躾けるには夫婦の愛と父母の愛が先づ必要だと思ふだけです。

五四、内氣な兒を快活に導いた　動物好きの趣味

◇兎を飼つて胃弱を癒し。　見違へる樣な健康に。

天眞爛漫な子供は、その趣味性を巧に利用しましたならば、惡癖の矯正も決して難かしい事ではありません。私の長男は六歳の頃まで大變胃腸が弱く、之が基で性質が非常に内氣になり、家に計りくすぶつて居て、滅多に外へは出ず、朝起きると早シク〳〵泣いて母に纏り付き、私は子供の機嫌を取るのに忙しく、大事な内職も出來兼ねると云ふ有樣でした。こんな風で間食も自然に與へる樣になるので、絶えず胃腸を惡くし其上身體がひどく衰弱してゐる爲始終風を引くと云ふ具合で、私共夫婦の心配の種になつて居りました。

所がこんな子供にも、何うかすると時に溫順しいことがあるものです。私の子

供も妙に溫順しいなと思つて樣子を見ますと、其時は必ず馬や猫の玩具を弄んだり、隣の犬と戯れて居るのであります。そこで私は『此の子はきつと動物に趣味があるのであらうから、此の性質を利用しすれば内氣な癖丈げで治すことが出來るであらう』と氣が付きました。そこで或日試みに小兎を二匹買つて與へますと、子供は大層喜んでその日は不思議に兎の傍を離れませんでした。私は其夜子供を寢かす時、「兎も御飯を食べるから、朝起きたら草を取つてきておやり」と言ひ聞かせました。すると何うでせう、今の今迄一回も泣かずに起きたことの無い子供が、翌朝は生れ變つた樣にニコ〳〵して飛起き、機嫌よく庭へ下りて草を刈つて來て與へました。此の樣子を見た私共は思はず喜の聲を發しました。次の日からは、今日は兎の藁床代へ、明日は箱の掃除と毎日一つ宛仕事を言ひ付けました。子供は段々面白味を覺えて一生懸命にやります。それに時々兎が飛び出

るのでそれを捕へようとして駈け廻るので良い運動にもなりました。

二月程經つと庭の草がスッカリ無くなつたので、私は子供を連れて田圃へ草刈に參りましたが、その次からは子供の機嫌の良い時を見て『今日は天氣がよいから一人で草を取つて御出』と奬めますと子供は喜んで出て行きました。田圃までは二三町もありますから往復丈でも可成の運動になります。その上思ふ存分太陽の光を浴ひ、田舍の新鮮な空氣を呼吸して草花を摘むので、いつの間にか子供の顏が日に焦けて男らしい色になつて參りました。こんな具合で子供は日一日と兎に親しみ駄々の蟲もスッカリ忘れて、今迄は腫物にでも觸る樣にして、只機嫌を取ることに計り腐心して居たのが、生れ變つた樣に活潑に健康になつて行きました。

私は絶えず機會を捉へて子供の心を愉快に引立てましたので、さすが頑固な內

氣もスッカリ快活になり、長い間惱まされた胃弱も治つて了ひました。長男は今年八歳の年を迎へましたが、今でも學業の餘暇一人で、澤山の兎を飼育し、恰度副業の樣にして居ります。

五五、女中代りに働いて　健康と資本を

◇女學校に通ふ三人姉妹に。　母は斯うして勤儉を敎へた。

私は本年十九歳の女でございます。母は亡くなりましたが、私は三人姉妹の一番上で、父は達者で居ります。亡くなつた母は日頃自立自營を貴び、常に勤儉に身を持つ事を敎へましたので、私も只今では萬一の事がありましても、獨立して商業を營むだけの信念と資本とを得ました。

私が十二歳の時までは、お金の事などは何とも思はず、毎日澤山の無駄使ひや

ら、不行儀な買食ひなどをしましたので、その爲めいつも胃腸病に惱まされて、學校も缺席勝になり、成績も悪かつたのでございます。母は大層心配して、私の將來の爲めにならぬからと、買食ひの良くない事や勤儉貯蓄の大切な事を語られて、毎月學校用品代其他として二圓宛頂く事にしました。其二圓のお金で入用な品は自分で買求め、月末には計算表を母に見せて、殘分は預金し、更に家事をよく手傳つた時は、賞與を頂く事になりました。かうして十四歳の時に、女學校へ入れていたゞく樣に母に願ひましたら『これもお前の爲めだから決して止めはしないが、お前が女中代りに働くなら、妹も大きくなつたし行くがよい、その代り女中を廢して今迄女中に與へて居た給金はお前に上げるから』との事でしたから、私も學業の傍、一生懸命女中代りに働く事になりました。併し朝晩の炊事から拭掃除、店の手傳ひなど、思ひの外に忙しくて、復習するひまもなく、つく

づく悲しい時もありましたが、勝氣な母にはげまされて、やりとほす事が出來ました。其かはり月に拾圓宛預金する事が出來ましたし、働くやうになつてからは昔の弱々しい體に比べて自分ながら驚くほど健康になりました。このやうにして母は又妹も私と同じやうな育て方をして居ましたが妹も熱心に働いて居ります。このやうに母が勤儉を敎へる傍、父は又斯のやうな育て方は拜金宗に傾きはせぬかと心配して、常に心まで金錢に支配されるなと敎へてくれました。

かうして私共は最も華美に虛飾に流れ易い少女時代を健全に眞面目に暮す事が出來たのでございます。母が逝いて三年、かうした私共の健康も經驗も又た資本も皆亡き母の敎へに培はれた賜物と、常に心から感謝の念を絶たないのでございます。